

T-ACT



筑波大学
University of Tsukuba

つくばアクションプロジェクト

2011
APRIL

活動報告書



TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

目 次 -T-ACT 活動報告書-

はしがき

Tsukuba.L.T -読んで伝えて大学生活に「新たな発見」を- (09025A)	1
Lunch for Everyone ~留学生が安心できる学食~ (09026A)	4
3R+1EcoCycle09-10 (09028A)	6
変活 2010 ~異学類交流会~ (09032A)	10
第 2 回あなたの小説が読みたい	12
——筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集—— (09033A)	
松下政経塾生による『志』講座 (09035A)	14
こども遊園地 Good Job 2010 ~夢のお仕事体験場~ (09036A)	18
I Love 土浦~土浦市活性化プロジェクト No.1 (09037A)	21
「お母さんの命を守るキャンペーン」支援 (09039A)	24
『つくば丼』プロデュース計画 【第 1 弾】 (09043P)	28
Table For Two in つくば~学食で飢餓と飽食の同時解決!?!~ (10001A)	30
変活 2010 (10003A)	32
キャンパスツアー (大学案内) でのキャンパスアテンダント体験第三期 (10004A)	34
学校図書館に興味のある人で集まりませんか? (10005A)	38
学校図書館司書と一緒に学校図書館運営に役立つコンテンツを作りませんか? (10006A) ..	40
“つくバグ” 子供たちと昆虫採集をしよう。(10007A)	42
留学生と日本人学生の共同情報誌づくり第 3 弾 (10008A)	47
GM Flower Show (10009A)	51
鉄板「自己 PR」をつくろう~本田直之式・自分プロデュース術~ (10011A)	53
茨城県の名産品『納豆』を作ってみよう! (10012A)	56
そうだ!! スリラーを踊ろう@雙峰祭 (10013A)	59
ロボットの大会で工作教室~子供たちに科学技術を伝えよう!~ (10014A)	61
学び場さくら塾 2nd Season (10016A)	64
『iPhone アプリコンテスト』開催!	67
~筑波大生のための iPhone アプリを考えてみませんか~ (10017A)	
遺伝子組換え勉強会 (10018A)	71
学生 Watching!! (10020A)	73
学生のための護身術講座 (10023P)	75
なんやかんや就活~内定者と話す~ (10031A)	77

「チェルノブイリ」のいまと向き合う (10033A).....	79
「あえてチョイスしてみる生き方」講演会 (10034A).....	82
岸英光コーチ単発講座 (10035A)	85
新春！大餅つき大会を開催しよう！！第二弾！！ (10036A)	88
社長超特別講演 in 筑波～挑戦し続ける人々～ (10044A).....	91
ランチ交流会 (10049A)	94

編集後記

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(平成22年度)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に採択された筑波大学の取組みです。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生の主体的で多様な活動を大規模に創出させることを目標としています。この取組みがとりわけ新機軸としていのは、プロジェクトを推進する立場の大学がイベント等の企画・運営を行うのではなく、学生みずからが新たな活動(アクション)を企画し、仲間を募り、そして実施していくという点です。大学として、データベースの整備や電子掲示板の設置などハード面での支援と、専任のコンサルタントによる相談等の支援を用意していますが、「活動の創出」という本プロジェクトのコアの部分は、もっぱら学生の自発性、イニシアティブに任せられています。

本プロジェクトが実質的にスタートしてから2年半ほどが経ちました。その間、多種多様な活動が学生により企画され、実施に移されています。平成23年2月時点で通算106件の企画が大学公認の活動として承認されています。本報告書には、昨年度の『活動報告書』に掲載されたものと現在実施中のものなどを除き、34件の企画とその活動報告が掲載されています。

本報告書を見ていただければ分かるように、T-ACTとして文字通り多種多様な活動が企画・実施されています。アカデミックな企画、文化・食事にかかわる企画、国際交流を意識した企画、就職に役立てようとする企画、学生の意識向上をねらった企画、ボランティア色の強い企画等など、たいへん多彩です。また、プランナー、オーガナイザー、パーティシパントとして企画にかかわっているのは、学群の1年生から上級生、大学院生まで広い層に渡っています。T-ACTが筑波大学の中で認知され始め、ある程度、定着したと言ってよいと思います。ただし、本冊子の「今後の課題」や「T-ACTに関する感想」に見るように、多くの企画において最初に人を集める段階ではかなりの苦労があったようで、それに関連して、電子掲示板が必ずしも広報の有効なツールになり得ていないのではないかという声、また、T-ACT自体が学内でもっともっと広がってほしいなどの要望がありました。

本プロジェクトは、平成23年度が学生支援GPとしての最終年度になります。さらに活動の輪を広げていくために、学生だけでなく教職員の方々への広報活動にも力を注ぐとともに、補助金終了後の活動継続を視野に入れ、プロジェクト全体の評価を受けたいと考えています。皆様のさらなるご支援とご助力をお願い申し上げます。

平成23年3月

つくばアクションプロジェクト運営委員会

副委員長 加賀 信広

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 Tsukuba.L.T –読んで伝えて大学生活に「新たな発見」を – (09025A)

T-ACT プランナー 中田 智洋 (心理学類)

活動内容

【背景】

大学生なら、きっと本を読むことが好きでしょう。でも、今まで、本で読んだ知識をみんなと共有する場所ってなかったですね。そこで、本で得た知識を共有する機会を作ろうと考えました。それが、Tsukuba.LT (Light Talk) です。この会では、知識の幅を広げるだけではなく、プレゼン能力の涵養にも重点を置きます。つまり、総合的な学習能力の向上を目指します。

【内容】

内容はいたってシンプル。決められた期限で本を読んで、それをみんなの前で発表するだけです。具体的には次のような感じです。一週間、もしくは隔週で自分の好きなジャンルの本を読んで、事前に A4 の文章一枚、パワーポイント五枚にまとめます。発表当日に、5 分間の時間を計って、発表します。その後、質疑応答を行います。更に、作ってきたものを WEB に上げ、LT の成果物として蓄積していきます。活動時間は、集会一回当たり 2 時間程度を予想しています。団体活動は T-ACT の一環として始め、初回の活動期間は三か月と予定しています。

【参加することのメリット】

人に教えることのメリット

- 本を読むモチベーションを高めることができる
- 簡潔にわかりやすく説明する能力を高めることができる

多様な意見を聞くことのメリット

- 学際的な見識を深めることができる
- 相手の発表方法を学ぶことができる
- 短時間で知識を得ることができる

分野の違う人とつながることのメリット

- 全く違う視点から自身の専門分野を俯瞰できる
- 新しい人間関係を構築することで、大学生活の充実を図ることができる
- 学際的な筑波大学のキャパシティを活用することができる

活動期間

平成 21 年 11 月 13 日～平成 22 年 1 月 31 日

活動計画

平成 21 年 11 月	活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて、発表練習を開始する
12 月	WEB で大学外部にいても、発表の機会を提供できるシステム作りを開始する
平成 22 年 1 月	発表練習を継続する。成果物のフィードバックを行う。

備考欄	【対象者】読書好きな人、自分の意見を発表したい人、プレゼン能力を鍛えたい人、知的好奇心にあふれる仲間を作りたい人 *学群・院生・研究生・他大学など学年は問わない
T-ACT オーガナイザー	藤 吾郎（心理学類） 山田 航平（教育学類）
T-ACT パートナー	外山 美樹（人間総合科学研究科 准教授）

活動報告

活動成果

平成 21 年 11 月 20 日：第一回 Tsukuba.L.T

発表者：中田、藤

内 容：物事をわかりやすく伝える技術の紹介、アルファブロガーのダンコガイの紹介

平成 21 年 12 月 04 日：第二回 Tsukuba.L.T

発表者：三津石、中田、藤、酒井、山下

内 容：ラーニングパターンの紹介、Free の紹介、アルファブロガーの紹介、自転車の乗り方、吉祥寺の話

平成 21 年 12 月 18 日：第三回 Tsukuba.L.T

発表者：中田、上野、藤、山下、金岡

内 容：心理学と経済を絡めた話、やる気の保ち方、オリバーサックスの自叙伝、山口絵里子の話、頭の良さについて

平成 22 年 01 月 08 日：第四回 Tsukuba.L.T

発表者：中田、山下、山田、金岡、三津石

内 容：iPhone の効果的な使い方、青森の現状、独創性について、希望格差社会、ラーニングコミュニティについて

今後の課題

とにかく人の集まりが悪かったです。単位も何ももらえないのに発表の準備をして、二時間をこの会に割くのは相当意識の高い学生にしか向いていない気がしました。今後、継続してL.Tを行って行くには、モチベーションの維持をどう保つかが大きな課題となるでしょう。以下が改善していくポイントです。

1：確実に集まれるスケジュールを立てる

2：活動内容をこまめに記録する

3：パーティシパントに文章の作成を習慣化させる

1については、学生は基本「超暇」という私の完全な思い違いから生じた課題です。「超暇」かもしれないけれども、事前にスケジュールを立てていないとパーティシパントの優先順位が落ちて、前日や当日にドタキャンとなる傾向がありました。

2については、記録することで、この会をどうしていきたいのかという軌道修正を加えることが出来ます。

3についてが一番難しいことです。発表して終わりというのがこの会の欠点でした。発表=仕事になってしまう結果、人も集まらなくなったと思われます。

経験者からのメッセージ

鳴かず飛ばずになるかもしれませんが、はじめの一步としてT-ACTは最適です。仲間を組織して会を動かすことにリスクがほとんど伴わないのが良い点です。私自身、この活動が次の活動のステップになりました。自信が無くても友達がいなくても、何かの団体を取りあえずスタートさせてみましょう。うまくいってもいなくても大きな成長となるはずですよ。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

わずか四回の発表機会でしたが、参加者の発表能力に著しい向上が見られました。

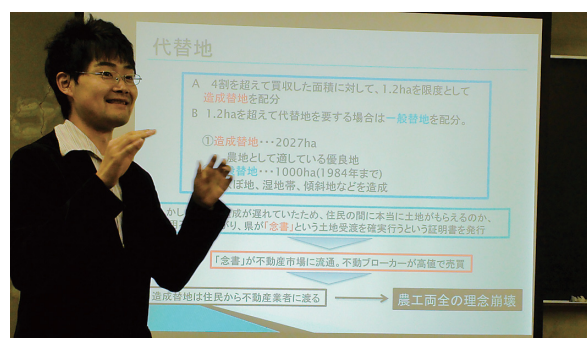
T-ACTに関する感想

人を動かしていくことの難しさが痛感できた3ヶ月でした。一緒に学生達と議論して会を作り上げていくという理想が、幻想だったことがよくわかりました。プランナーが受け身だとパーティシパントには伝わらないということを実感することが出来ました。

マネジャー（プランナー）がどれだけ組織を率いていく高い理念があるか。真摯さとは何か、ほんのちょっとだけ理解できた気がします。いずれにせよ、次の活動に繋がる土台であったのは間違いありません。

もう少し具体的に述べると、次の2点がこの会で得られた大きな財産です。

- ・人脈がひろがり、次のステップにたつことが出来た
- ・ラーニングコモンズという部屋の存在を知ることが出来た



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 Lunch for Everyone ～留学生が安心できる学食～ (09026A)

T-ACT プランナー 福士 路花 (生物学類)

活動内容

グローバル 30 によって留学生が増える中、筑波大学では様々な点で留学生を受け入れる準備がまだまだ整っていません。

そこでまず、私たちは生活の基本である食事に関して改善できる点に着目しました。

現在、筑波大の学食にはイスラム教、ヒンドゥー教など食事制限がある留学生達にとって安心して食べられる食事が用意されていません。

せっかく日本に来たからには、食事の問題にとらわれずに充実した毎日を過ごして欲しい。

私たちの最終目標：宗教による食事制限がある人のためのメニューを学食に導入したい。

第 1 弾の目標は、実態調査。

学食のより詳しい現状把握、意見調査などを行いたいと思っています。

また、この活動を通してより多くの筑波大生に、他国の食文化について興味を持ってもらい、一緒に理解を深めていけたら、と思います。

University of Tsukuba has not adjusted it's system to accept the international students.

Food is the basis of everyday life, so reviewing the meals offered at the cafeteria would initiate a change.

Currently there are not enough meals at the cafeteria that Islamic and Hindi students can eat without worrying. Taking in these food at the cafeteria would allow everyone to make the most out of their university life in Japan.

Our final aim: Introduce food that people with religious food restriction can have to the University colleagues better !

活動期間 平成 21 年 12 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

活動計画	平成 21 年 12 月	活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
	1 月	・実態調査 (学食現状把握・留学生にアンケート) ・食文化についての勉強会
	3 月末	活動終了 実態調査の報告をまとめる その結果に基づいて次のプランを練る with 学生生活課厚生宿舍チーム

備考欄 We are welcome to have Muslims and Hindis for our participants. その他食文化・文化交流に興味のある方ももちろん大歓迎です。

T-ACT オーガナイザー

幣原 奈央子（生物学類）

T-ACT パートナー

池田 潤（人文社会科学研究科）

活動報告

活動成果

- 1/15 先行事例調査：京都大学
- 1/18-22 学食調査
- 1/25 全代会厚生会班との話し合い、食品成分表示・英語表示に関する要望のしぼりこみ
- 1/28 先行事例調査：東京大学
- 2/1 先行事例調査：立命館大学
- 2/5 大学院教育 WG 会議参加 学食の成分表示・英語表示に関する提案
- 2/2 週目～2/23 アンケート配布
- 3/3 学生部 菊地さん・高谷さんと MTG
- 3/10 厚生会班冊子「うい～る」に寄稿
- 3/11 LfE 全体 MTG（アンケート集計完了）
- 3/16 副学長塩尻先生と MTG

今後の課題

今回は理想や目標などをかためることがメインだった。
次は食堂や学生部と具体的に実現に向けた話し合いをしていきたい。

経験者からのメッセージ

一度電話が繋がらなくても、何度でもかけ直せばいつつながります。
日を改めればつながることもあります。
相手が着歴を見て折り返してくれることはほぼ、ありません。
自分が待ちの姿勢では何も動かないのだと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

他国・他宗教の食文化に関する知見が深まった。

T-ACT に関する感想

調査によく使うので電話が借りられたら happy です
T-ACT の登録方法などの英語説明書があれば楽です

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 3R+1EcoCycle09-10 (09028A)

T-ACT プランナー 伊川 景 (応用理工学類)

活動内容

昨年度末から今年度の初めにかけて実施された 3R+1EcoCycle08-09 の活動を引き継ぐものです。

例年、卒業や転居のシーズンには学生宿舎や大学の周辺で大量の家具や家電が廃棄されており、その中にはまだまだ使用できるものも多く含まれています。そこで、卒業生や宿舎から退去する学生などからまだ利用可能だが不要となった家具や家電を引き取り、清掃や点検をした上で新入生に提供することで、本学に循環型社会を構築するための第一歩とします。

活動期間

平成 21 年 8 月 24 日～平成 22 年 4 月 11 日

活動計画

平成 21 年 8 月	前年度から引き続き参加するメンバーで改善すべき点の洗い出しなどを行った。
9 月～ 11 月	新規のメンバーを募集するため、今年度の 4 月に物品を受け取った方を含む学群 1 年生を対象として説明会などの広報活動を行った。
12 月～平成 22 年 1 月	取り扱う品目の検討や物品回収のスケジュールを組む。 ポスターや学内広報誌、電光掲示板などの広報媒体を用い、学生や教職員の方々に不要な物品の提供を呼びかける 物品の保管と清掃をするためのスペースを探す。昨年度は一の矢宿舎内の空いていた共用スペースを使用させていただいた。今年度も十分なスペースを借りられるか交渉をする。 昨年度、法制度上の問題（防犯登録の委譲手続き等）から未達成に終わってしまった自転車の取り扱いについて、調査や解決策の検討を行う。
2 月～ 3 月	宿舎共用棟への持ち込みや個人宅へのトラックでの訪問といった形で物品を収集する。順次清掃や点検を行い、Web 上で抽選を行う。
4 月～宿舎入居日	各宿舎に拠点を設置し、宿舎への入居作業の間に新入生に物品を引き渡す

備考欄	主に全代会及び環境サークル「エコレンジャー」の有志 30 名程の学生が参加をしています。トラックを借りる際などの予算についてはエコシティ推進グループから出して頂けるそうなので、今後学生生活課の土子様と相談します。
T-ACT オーガナイザー	須藤 めぐみ（国際総合学類） 後藤 瑛（教育学類） 瀬田 幸平（生物資源学類） 三宅 紀貴（生物資源学類） 檜垣 和司（人文学類） 高橋 宏幸（数学類） 兒島 正典（工学システム学類） 藤田 恵子（地球学類） 大島 洋音（物理学類） 安富 陽子（応用理工学類） 鈴木 聡史（工学システム学類） 藤井 太郎（社会学類） 渡邊 康太（工学システム学類）
T-ACT パートナー	伊藤 太平（学生部学生生活課） 土子 昇（学生部学生生活課）

活動報告

活動成果

【活動成果の概要】

平成 21 年度は 4 年目を迎え、学生 30 名ほどで活動した。まだまだ粗削りな面はあるものの年々規模が拡大しており、学内外からの認知度も増していると感じている。

昨年度に引き続き、300 点近い家具や家電の再利用を手助けすることができた。

特に冷蔵庫 23 台、こたつ 12 脚など、引っ越しの際に輸送しづらいものがコンスタントに収集できており、引き取り手の方々（新入生）からも好評をいただいている。

また物品を提供してくださった方（宿舎退去者・卒業生・教職員など）からも、「また使ってもらえてうれしい」「処分の手間が減らせる」といった好意的な意見を頂いている。

なお回収日における物品の収集や輸送のため、民間業者から軽トラックを借りて利用している。

インターネット上で抽選を行い、300 名ほどの新入生の方々からの応募を受けた。

また宿舎入居日での引き渡しに並行してカラーボックスなどの当日抽選会や生活用品の配布も行い、事前に当選した方以外の方にも楽しんでいただくことができた。

【3局での活動】

◇運営局

11 月の半ばから 2 月にかけて、計 6 回のミーティングを行った。

また細かい問題に対処するために「回収日担当」「入居日担当」に分け、そちらもそれぞれ 4～5 回のミーティングを行い、作業の計画などを立てた。

エコサイクル発足当初からの課題である「自転車」の取り扱いを検討するために、自転車の担当も立ち上げた。

こちらも 6 回ほどミーティングを重ね、学生生活課の方とも数回面談を行い、回収→提供の流れも決めたものの、肝心の自転車が思いのほか確保できず、今年は取り扱うことができなかった。

◇広報局

計 10 回ミーティングを行い、エコサイクルの広報戦略の検討や広報物の作成を行った。

マスコットキャラクター「えこさいくるん」のデザインも担当した。

また試験的に総合科目の担当教員の方にお願ひし、授業終了後にエコサイクルの宣伝をさせていただいた。

(製作物)

物品提供を呼びかけるポスター

寝台底上げ用ブロックの提供を呼びかけるポスター

スチューデント エコサイクル紹介記事

研究室向け提供呼びかけビラ

スタッフジャンパーのロゴデザイン

◇情報局

Web サイトや抽選システムの管理・運営を行った。

【具体的な活動】

2 月の半ばから 3 月末にかけての 10 日間を物品回収日として物品の引き取り活動を実施し、大小 300 点近い家具や家電を集めた。

その際、平砂及び一の矢学生宿舎共用棟内に受付を設置したほか、民間業者からレンタルしたトラックを用いて学外の個人宅への訪問回収も実施した。

また宿舎の寝台の底上げ用に使われる木ブロックも平砂・追越・一の矢宿舎共用棟および春日宿舎内にて回収を行い、100 セットを超える提供を受けた。

回収した物品は保管用に貸していただいた追越学生宿舎 16 号棟のモデルルームにて清掃や写真撮影などを行い、インターネットを通じて引き取り手の募集と抽選を行った。

入学書類への広告の封入や大学や学外のウェブサイトを通じて新入生に活動内容を周知することができた。

約 300 人の新入生から応募があり、うち約 130 人に物品を提供することができた。

また入居日当日にカラーボックス・衣装ケース・木ブロックの抽選会や食器・生活用品等の配布も行い、事前に当選された方以外の方にも楽しんでいただくことができた。

今後の課題

◇スタッフの募集◇

エコサイクルのスタッフは全代会及びエコレンジャーの有志が大部分を占めており、参加できる人数はおのずと限られてくる。

両組織以外の学生、とくにエコサイクルで物品を受け取った新入生をスタッフに呼び込むべく説明会などを実施した。しかしサークルではないため積極的な新歓活動は行えず、また活動を開始する時期が 2 学期半ばとなることから多くの学生は他のサークルや学生団体などに所属してしまっており、その時期のスタッフ募集も困難な状況である。

活動の規模を拡大するのであれば、より有効な募集手段の確立や受け入れ態勢の整備が必要である。

◇仕事量の集中◇

4 年目の活動を迎え、大まかな活動の筋道は確立出来ているが、細かなノウハウの継承・共有はあまりうまくできてはいないと感じている。

その結果、前年度の様子を知っている少数のスタッフに作業の負担が集中してしまうことが多々あった。

◇物品の保管場所の確保◇

回収した物品の管理等を行うため、08-09,09-10 と学生宿舎の空きスペースを使用させていただ

ている。

幸い広さは問題のないものを借りることができているが、年度により使える場所が変わっており、次年度以降も大学内で場所を借りられる確証はない。

地道に交渉を行うほかはないかと思われるが、保管場所が確保できない場合は最悪、活動を休止せざるを得ない事態となる可能性もある。

◇予算の確保◇

エコサイクル 08-09 にて受賞したつくばエコシティ推進グループ奨励賞の副賞として、今年度（10-11）までの活動資金が付くことになっている。

予算の大部分は回収日に使用するレンタカー代に充てている。

今後大学から予算が付かなくなった場合、金銭の授受をしない方針を継続するのであれば、レンタカーを使用する形式を見直す必要がある。

◇雨天◇

平砂・一の矢の宿舎入居日に激しい雨が降り足元がぬかるみ、受付の設営などに非常に手間取った。宿舎管理事務所の都合上 8 時 30 分以降でなければ物品の搬出ができず、予想外の運搬の困難さ（追越—平砂間ペデストリアン上の混雑による）もあって予定の 10 時受付開始には間に合わなかった。

テントやレインコートである程度の防水は出来たものの、スタッフの疲労が溜まってしまうことは避けられなかった。

経験者からのメッセージ

プランナーさんへ

期間限定プロジェクトの運営という、他ではなかなか味わえない活動です。

是非全力で取り組んでみて、自らの実力を試してみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

今年度からの参加者の成長が目覚ましかった。

最初の内は受け身だった仲間が、仕事を振られるうちに徐々に主体的に動いてくれるようになった。

T-ACT に関する感想

- ・アクションの PR をもっと広くできれば、と思います。
- ・オーガナイザー、パーティシパントのアンケート結果を閲覧できれば今後の活動の参考になります。人数の少ないところは回答者を特定出来てしまいそうですが。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 変活 2010 ～異学類交流会～ (09032A)

T-ACT プランナー 小笹 諒介 (体育専門学群)

活動内容

筑波大学には様々な学類・団体が存在する。学類・団体を超えて多くの人と交流が図れることは総合大学の強みである。

※変活とは？

就職のための活動＝就活

結婚のための活動＝婚活

変化のための活動＝変活

変活は変化のための活動。多様な人々と交わることで、新しい目標や新しい価値観を見つけることが目的。

活動期間

平成 21 年 12 月 28 日～平成 22 年 3 月 31 日

～交流会進行スケジュール～ (参加人数は 50 人を予定)

【1】グループ分け) 1 グループ 5 ～ 6 人)

【2】自己紹介

【3】「私の夢」プレスト (20 分)

(1) 各グループにファシリテーター (司会兼記録係) を 1 名配置

(2) 参加者全員に夢を発表してもらい、紙に書き出す

(3) 参加者同士の夢を繋ぐワードをプレストでたくさん出してもらう

(4) 最終的にグループで共有できる一つの夢としてまとめる

【4】発表 (各グループ 1 分×グループ数)

【5】ワークのまとめ (3 ～ 5 分)

【6】歓談 (30 分)

～そのほか「変活 2010」概要～

開催頻度：月 1

開催場所：未定

第一回開催日：2 月中を予定

活動目標：活動的な学生を一人でも増やす

活動計画

平成 21 年
12 月

申請

平成 22 年
1 月

活動開始
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る(第 1 週)
参加者募集の告知活動 (第 2 ～ 4 週)

2 月

第一回変活開催

3 月

第 1 期活動終了
メンバーで活動を振り返り、今後につなげる

備考欄

T-ACT オーガナイザー

松田 悟（生物資源科学専攻）
八木 悠気（比較文化学類）
石井 芳佳（看護学類）

T-ACT パートナー

荻野 祥三（本部付広報室）

活動報告

活動成果

・ 活動内容

09年 12/28	企画提案	1/27	MTG
10年 1/8	MTG	2/1	本番シュミレーション
1/13	MTG	2/2	MTG
1/20	MTG	2/3	決起集会
1/26	授業ジャック	2/4	変活 2010 —異学類交流会—

・ 目標達成度（その根拠も述べる）

100%

理由：今まで全く知らない人たちと 50 人以上つながることができたから。

確実に私自身が「変化」することができた。交流会には 30 人ほどが参加した。参加者からも「おもしろかった。また参加したい！」との声が多く聞かれた。

・ 得られた成果

上記を参考にしてください。

今後の課題

今回は学内規模の企画を実施した。今回の経験より人が集まって本気を出せば世界規模でものごとを変えることができると認識できた。次回は規模を拡大して変活の輪を世界に広げたい。

経験者からのメッセージ

気合いで乗り切ってください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

変化しました。活動成果をご参照ください。

T-ACT に関する感想

T-ACT フォーラムが主導で今後も継続して学生側の視点で支援して下さると嬉しいです。面白いことが次々と起こると思います。今後の発展が楽しみです。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 第2回あなたの小説が読みたい——筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集—— (09033A)

T-ACT プランナー 谷 秀次郎 (心理学類)

活動内容

文芸作品を学生が先行し、受賞作を決定するために、学生の作品を募集する。
また、本団体は、主に筑波大学全体の創作活動の活性化を目的として創設された。

活動期間 平成22年1月1日～平成22年6月30日

活動計画

平成22年 1月～3月	作品および一般選考委員を4月から募集することを 広報していく
4月	作品および一般選考委員募集開始する
6月	作品および一般選考委員募集締め切り
7月	一次選考 集まった作品をオーガナイザーのみで選考する
8月	最終選考 一次選考から上がった作品を一般選考委員（パーティ シパント）と共に選考し、受賞作を決定する
9月	受賞作発表 受賞作掲載冊子の編集
10月	学園祭にて冊子無料配布 活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまと める

備考欄

T-ACT オーガナイザー

三上 勇人 (医学類)
岡部 俊生 (比較文化学類)
赤見 和成 (比較文化学類)
柴田 侑規子 (日本語・日本文化学類)
塩田 真史 (応用理工学類)
太田 遼吾 (教育研究科)
神田 夏海 (比較文化学類)
柏 零 (社会工学類)
松下 聖 (人文学類)
伊藤 一成 (教育学類)
竹前 みねか (生物資源学類)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 1月～6月まで、隔週でミーティング・ポスター貼り
- 3月 紫峰会の援助金申請
- 4月 作品・一般選考委員募集開始・一次選考会に向けての勉強会
- 5月 同上
- 6月 一般選考委員説明会を開催
- 6月30日 募集締め切り

・目標達成度

70%程度の目標達成をできたと思います。作品数は47作品（一般部門22作品、ベリッシュ部門25作品）と予想以上の数が来ました。昨年（55作品）と比べると多少の差なのですが、昨年は一人の作者が何作品も募集してくる場合があります。今年は、一人各部門3作品まで、と決めていたので、数は減ってくると思っていました。しかし、ほぼ同じ作品数となってくれて大変うれしく思います。

また、一般選考委員説明会を開いたことで、最終的に9名もの人が応募してくれました（最終的な日程調整中なので、9名全員が参加できるとは限らない）。昨年は、四苦八苦していた部分なので、こちらもうれしい気持ちでいっぱいです。

・得られた成果

頻繁にポスターを貼り替えたり、多くの場所に貼ったり、また立て看板を使った一般選考委員の募集によって、校内の多くの学生にこの筑波学生文芸賞が昨年よりも知られているのでは、と感じます。実際の人数は調査することはできないのですが、作品数や一般選考委員数から感じることはできると思います。

今後の課題

他大学への広報いまひとつ効果を発揮できずに終わってしまった。たぶん、T-ACT外のことなので、どうしようもないかもしれないが……。

校内に関しては、ポスターが有効であるので、(広報的には)あまり課題を感じなかった。また、編集作業についても、同様。

経験者からのメッセージ

企画自体は、昨年のを引き継いだような形なので、あまり助言はできませんが、どのような人を集めたいか、ということが明確になっているならば、あとは電光掲示板や校内ポスターがとても有効だと思います。広報に関しては、地道な作業も大切、と思いました。

T-ACT に関する感想

立て看板について。これが意外と広報効果が強く、実際、一般選考委員を募ったときにも（ポスターで二週間前くらいから告知したが）、説明会に来てくれた人の中で、立て看板のことを言う人もちらほらいたので、T-ACTで許可が降りるようにしてもらいたい。また、立てる期間の延長を認めてもらえれば、なおいいと思う。(会の性質上、広報活動が要でもあるので)。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 松下政経塾生による『志』講座 (09035A)

T-ACT プランナー 矢田 晃一 (社会工学類)

活動内容

【問題意識】

現在私は、就職活動をしています。そこで気になったのは、筑波大生ひいては大学生全般に「夢」や「自分の軸」が欠如しているという現実です。私はそこに問題意識を持っていました。

【企画立案の経緯】

そのような問題意識を持っていた私は、先日私の友人の紹介で松下政経塾（松下幸之助が設立した私塾）の塾生の方にお会いする機会がありました。そこで、塾生の「志」のお話を聞き、「塾生のお話を学生が聞くことは、学生にとって自分の夢や自分の軸を考える良い機会になるのではないか？」と考え、塾生にお願いして、筑波大学でお話をして頂く約束を取り決めました。そして、その講座を T-ACT に申請し、より規模の大きいものにしたいと考え、こうして企画の申請をしている次第です。

【最終的な目標】

■講座の目標（参加者）

- ・「志」を持った方のお話を聞くことで、学生に自分の夢や自分の軸を考えるきっかけを与える

■プロジェクトの目標（私自身）

- ・自分がイニシアチブをとって、全てを一から作り上げる経験をする事で、リーダーシップを磨く
- ・社会人との交渉を経験する

活動期間

平成 22 年 1 月 25 日～平成 22 年 5 月 31 日

活動計画

平成 22 年 1 月	T-ACT に申請→承認を得る メンバー集め 講師（松下政経塾生）と打ち合わせ（1 月 25 日守谷にて）
2 月	講座開始 （平成 22 年 2 月 23 日（火）18：30～20：30） 〔仮題目〕 「日本を変える私の初めの一步」 ～一度きりの人生をどう生きるのか～ 〔内容〕 1. はじめに（自己紹介） ・多感な時期のダイナミックな変化 ・脱出したかった茨城県 ・イベント企画と世界放浪の大学生活 ・読売広告社での 13 年間

		<p>2. 会社員の経験から「働く」ということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電通の「鬼十則」と「裏十則」 ・ はじまりは「個」、そして全体に ・ DNA は 60 億人すべて違う <p>3. 私の「志」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両親の死で松下政経塾へ「やっぱり茨城県が好きなんだ」 ・ 地域にこそ「良い社会」へのスイッチがある（ひたちなか市「干しいも学校」） ・ 「いのちの大国ニッポン」を茨城県から ・ 未来に誇れる日本を創ろう <p>その後、メンバーで振り返りを行う</p>
	4 月	第2弾の講座の準備 講師と打ち合わせ
	5 月	講座開催 その後、メンバーで振り返りを行い、活動報告書をまとめる
備考欄	講師として招く塾生に対する交通費・報酬については無償	
T-ACT オーガナイザー	高瀬 章充（社会工学類） 霜越 安文（数理物質科学研究科 数学専攻） 大島 翔平（生物学類）	
T-ACT パートナー	久保田 優（学生部就職課）	

活動報告

活動成果

【実施した活動内容】

- ・ 外部から講師を呼び、講演会を行った。
- ・ 自分たちでワークを作り、参加者に取り組んでもらった。
- ・ ミーティングを計 6 回行った。
- ・ 役割分担し、各自の仕事を行った（具体的な作業内容については ToDo リスト参照）

[種類]	[役職]	[担当]
会場設営	責任者	大島翔平
	副責任者	深川悠
講座	司会者	大野康明
	ワーク進行	高瀬章充
懇親会	感謝色紙	北野竜太
	責任者	森裕信
全体	副責任者	依田直生
	責任者	矢田晃一
	アドバイザー	霜越安文

【目標達成度】

・「学生に夢や志について考えるきっかけをつくる」という目標は、達成できたと考える。

講座後のアンケートより講座の満足度（5段階評価）：

講師の講演 4.24

ワーク内容 4.43

スタッフ対応 4.40

・集客については、40人を目標にしていたが、55名の参加者を現すことができた。

・ワークと懇親会が大いに盛り上がり、学生同士の交流の場を創ることができた。

【得られた成果】

・講師との交渉を経験できた。

・活動を行う過程で、多くの協力者が現れた（最終的に運営に携わった人は12名）。

・「志」をテーマにした講座を準備する過程で、自分たち自身の志を考えるよい機会になった。

・運営メンバーの多くは、こういった学生主体の活動に参加するのがはじめてであり、そういったメンバーにとって、チャレンジングな経験になった。

・講座を通じて、参加者同士の新しい出会いを生むことができた。・活動内容（これまでに何をしたか、日時まで具体的に記入）

今後の課題

【問題や困難】

1. 意識・モチベーションの共有

メンバー全員が忙しく、「意識、モチベーションの共有」が課題だった。

・メーリングリストで自分の考えを共有し、意識統一を図る

・少人数でもミーティングを行うことでメンバー同士の交流を生む

・全員に役割を与えることで、当事者意識を持ってもらう

このような取り組みによって、メンバーがまとまっていった。

2. 集客

はじめは、思うように集客ができず不安になった。

しかし、自分たちがやりたい講座は「参加者が多い講座なんだっけ？」という部分を見つめなおし、「参加者が多くなくていい。自分たちが創りたいのは、学生に夢や志を考えるきっかけになる講座だ」と気づいた。

それ以後は、集客に力を入れず、質の高い講座を創る（具体的にはワーク）部分をみんなで考えた。

その結果、予想以上の参加者が現れました。

【今後の課題】

・ミーティングの段取りの悪さ

改善策：「ミーティングでは、全員にコンセンサスをとるだけ」という部分まで事前準備を行う。

経験者からのメッセージ

僕はこのプロジェクトをやっていく過程で、ものすごく悩みました。

先輩に話を聞いてもらった時に、涙が出てきました。

本番が近づいた時、ものすごく面倒くさくなりました。

なんでこんなことやろうって言っちゃったんだろうと、本当に思いました。

でも、やってよかったです。

「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」

T-ACTの活動は、こんな感じです。
本気でやれば、本気でプロジェクトと向き合えば、必ず成長します。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

様々な人を巻き込みました。それにはねらいがあって、「刺激の強い人に活動を通して関わってもらうことで、刺激をもらってほしい」というねらいでした。

- ・あるメンバー（1年生）は、4月からのサークルの新歓委員としてやる気になっています。
 - ・あるメンバー（3年生）は、進路について悩み、院進学を辞めて公務員になることを決めました（彼にとってチャレンジングで、「やりたいこと」の方を選びました）。
- どちらも、このプロジェクトに関わったからかどうかはわかりませんが、変化が起きました。

T-ACT に関する感想

要望は特にはないです。
プロジェクトを進める上で、お世話になりました。
ありがとうございました。



日時：2010年2月23日（火）18:30-20:30
*開場・受付開始 18:00
会場：筑波大学 総合B棟 1F0110
参加費：無料
定員：120名

[当日プログラム]

1. 松下政経塾生 大谷明さんによる講演
題目「一度きりの人生をどう生きるのか」
2. ワーク
自分の「志」について考えよう。
3. 質問タイム
大谷明さんに社会人を通しての経験などをざっくばらんに聞ける時間を設けます
4. その後の懇親会も予定しています。

[講師紹介]

大谷 明（おおたに あきら）さん
松下政経塾29期。
茨城県ひたちなか市出身。株式会社販売広告社にて12年間の社会人経験を経て、2008年より松下政経塾入塾。現在は「地域主導による地域経済の活性化」をテーマに、日本中を飛び回り活躍中。
詳細：<http://www.mskj.or.jp/profile/ohtani.html>



[お申し込み]

下記のURLよりお申し込みよろしくお願いたします。
なお、お申し込みなしの当日の参加も可能です。
お問い合わせの上、ご参加ください。

URL：<https://ssl.form-mailer.jp/fms/7dff41af87789>

-問い合わせ先-

T-ACT 松下政経塾生による『志』講座 プランナー 矢田 真一(理工学群社会工学類3年)

E-Mail：koichi.yada@gmail.com TEL：090-8068-2172

認証番号：09035A

T-ACT

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 こども遊園地 Good Job 2010 ～夢のお仕事体験場～ (09036A)

T-ACT プランナー 高橋 美保 (人文学類)

活動内容

毎年5月に開催されるつくば四大祭りのひとつ「つくばフェスティバル」。
その一角である大学ブースを“街”に見立て、子ども達が主役の疑似社会を作ります。

★子ども達

- ・お巡りさん、花屋さん、ケーキ屋さん、郵便屋さんなど、憧れの職業を疑似体験
- ・頭と体を使った体験をすることができる
- ・独自の通貨を用いることで、働いてお金を得る喜び、市場原理を知ってもらう

★大学生

- ・誰かのために汗を流す喜び、大イベントをやり遂げる達成感を味わって欲しい
- ・準備・運営に積極的に関わること、「自由発想力」「物事を多面的に見る力」「企画実行力」などを身につけることができる
- ・様々なサークルに参加を呼びかけ、発想の輪・人の輪を広げる

活動期間

平成22年1月27日～平成22年5月16日

活動計画

平成22年 1月	活動開始 市との折衝、概略決定、他団体への参加呼びかけ
2月	新職業検討、“街”づくり、他団体との折衝、仕事プランニング
3月	春休み
4月	各種装置製作、広報活動
5月	シュミレーション、会場設営 5月15日(土)・5月16日(日)本番 ・職業体験ブースのシナリオ・装置作成 ・市の担当者、各サークルと折衝し、多彩なブース展開を実現 ・つくば市内の小学校・児童館、会場周辺の店舗などへ広報活動 ・当日、子ども達の職業体験をサポート ★当日スタッフとしてのみの参加も大歓迎！！

備考欄

- ★子どもが好きな人、イラストや工作が得意な人、何かでっかいことしたくてうずうずしてる人、求む！
- ★【オーガナイザー】事前準備に積極的に関わることができる(期間不問)

備考欄	★【パーティシパント】当日スタッフとしてのみ参加（どちらか1日・両日どちらでも可）
T-ACT オーガナイザー	坂倉 悠太（情報学類） 松本 紘一郎（教育学類） 渡邊 真心（心理学類） 田中 魁偉（人文学類） 金岡 孝浩（人文学類） あべ松 幸彦（知識情報・図書館学類） 大川原 友樹（工学システム学類） 大平 健司（知識情報・図書館学類） 小中 大地（人間総合科学研究科） 永田 洋（国際総合学類）
T-ACT パートナー	加賀 信広（人文社会科学研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 1 月ーつくフェス実行委員会①、市との折衝、概略決定、他団体への参加呼びかけ
 - 2 月ー他団体との折衝・説明会、ブース内容プランニング
 - 3 月ーテーマ設定、各ブースの責任者決定、全体企画考案
 - 4 月ーつくフェス実行委員会②、作業場確保→各種装置製作、広報活動
 - 5 月ー各種装置製作、当日配布物作成、広報活動
- 5/15（土）・5/16（日）ー本番

・目標達成度

【来場者】来場者数は二日間で述べ1300人。「お兄さん・お姉さんへのお手紙」という形で書いてもらった感想や、子供たちの笑顔を見ると、十分に楽しんでもらうことができたと思う。また、保護者の方々にも、ステージなどで行ったパフォーマンスを楽しんで頂けたようだ。

【運営面】初動の遅さ、各担当部署間での連携の粗さなど、来年度への課題を残した。昨年からの課題であった市との連携は、メールでこまめに疑問点を確認しあったり、当日もトランシーバーで密に連絡を取り合うなど、改善することができた。

・得られた成果

今回、学内外合わせて10団体に、ブース出展・ステージ出演という形で協力をお願いした。イベントの中で団体同士が交流したり、ブース企画の対象を子供だけでなく保護者や一般来場者にも広げたりすることで、思いがけない化学反応が起きているのを見てとれた。学生と地域住民との交流の場を作ると共に、それぞれの団体の新しい活動の可能性を拓くこともできたのではないかとと思う。

昨年からの課題であった市との連携は、メールでこまめに疑問点を確認しあったり、当日もトランシーバーで密に連絡を取り合うなど、改善することができた。当日は、市のマスコットキャラクター「つくつく」にこちらの会場まで出張してもらったり、放送によるメイン会場での広報をさせて頂いたりした。また、イベント中に作成した「夢」をテーマにした巨大寄せ書き「キッズゲルニカ」を、イベント終了後の一定期間、市役所のエントランスに飾って頂いた。

来場した子供たちの笑顔はキラキラと輝いており、「終わるのが惜しい」「来年も来たい」と何人もが口にしてくれたことが一番の成果だと思う。スタッフとして参加した学生も、イベントをやり遂げたという達成感と、来場者とのふれあいの中で何かを感じ取ったようだった。

今後の課題

【タスク管理】 Windows Live を用いたタスク及び資料の共有を行ったが、活用しきれず。タスク進捗状況の更なる透明化と、責任者同士の相互補助ができるような組織作りが必要。

【インフレ対策】 景品と疑似通貨(ジョブジョブ)との交換レートの高騰問題への対処。去年の通貨をとっておいた子どものための引き継ぎシステムと、それに伴う富豪化対策の再検討。今年は暫定的に物の値段を一桁増やすことで対応したが、長くは続けられない。

【混雑緩和策の検討】 今年は全体企画として、芝生を用いた「転がり競争」を行ったが、告知がうまくいかず、参加人数集めに苦労した。放送設備の有効活用法、全体スケジュールの組み方など再検討。

【ステージの進行管理の改善】 進行管理になかなか手が回らず、多くの部分が参加団体任せになってしまった。進行・音響係の常駐。

【メンバー管理】 T-ACT システムを活用しきれなかった。個人的な繋がりをたどって集めた人が多かったので、連絡先などを網羅しきれていない→次に繋がらない。集まったその場で簡単にできるメンバー登録の方法の考案が必要。

経験者からのメッセージ

入学当初、右も左も分からないままに「面白そうだから」と参加してみた Good Job。あの時は、1年後に自分がプランナーをやるとは思ってもみませんでした。イベントを創る立場になりたい!と志してからというもの、苦しみや挫折をたっぷりと経験しましたが、それ以上にプランナーの醍醐味を味わいつくしたと思います。

「何をすればいいのかわからない」「やりたいことが見つからない」という人に必要なのは、新しいことに挑戦する勇気かもしれません。T-ACT の企画は短期のものが多く、「とりあえず何かを始めてみたい」という人にはぴったりだと思います。

実践的なアドバイスをするとすれば、自戒を込めて、「プランナーは周到であれ」でしょうか。事を起こすのに早すぎるということはないし、手を広げようとすればするほど各方面への根回しが必要になってきます。また、担当を分けるのであれば、それぞれの責任者がタスクを共有して相互に助け合えるような仕組みを作る必要があります。大事なことは、プランナーが一人でやろうとしないことです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

興味を持って作業場に顔を出しに来た人が、小物を作るのに夢中になり、ずっと前からいたように溶け込んでいく様子を見ることができて嬉しかった。

当日のみ参加したスタッフも、初対面の人も多い中、各ブースごとに上手く馴染んでいたように思う。エネルギー溢れる子供たちに振り回されながらも、負けないくらいの笑顔で丸一日頑張ってくれた。

イベントが終わった後、とある一年生が興奮冷めやらぬ様子で「すごい、すごい」と言っていたのが印象深い。この規模のイベントを大学生の手で作ることができる、というのを体験したことで、良い刺激を得られたのなら嬉しく思う。

T-ACT に関する感想

T-ACT フォーラムの檜村さんには、たびたび運営上の相談に乗っていただいたほか、印刷費の面でも多大なご迷惑をおかけしてしまいました。当企画は市からの資金援助を頂いていることもあり、今後は、T-ACT フォーラムの印刷機を利用した印刷は、学内広報に関する印刷物だけに留めるべきかもしれません。次回以降のパンフレットなどの大量印刷物に関しては、外注する方向で検討しようと思います。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

I Love 土浦～土浦市活性化プロジェクト No.1 (09037A)

T-ACT プランナー

柴沼 佑次 (システム情報工学研究科)

活動内容

【目的】

皆さんは土浦市をご存知ですか？

お隣の市で、バスや車で行ける距離にも関わらずなかなか行く機会がなくそのまま卒業してしまう方がほとんどではないでしょうか？

でもこの土浦市、実は結構面白い街なのです。

一ヶ月後の3月下旬から4月上旬にかけて、土浦市は各地に桜が咲き乱れます。

今回のプロジェクトは土浦の市の花である“桜をきっかけに筑波大学と土浦を繋ごう”というものです。

特に亀城公園の桜、桜川沿いの桜並木、新川の桜のトンネル、真鍋小の桜(毎年テレビが来るほど有名)は、一見の価値あります。

また、土浦は歴史も古く、平将門や徳川家とのゆかりも深いなど、好奇心をくすぐってくれる要素がたくさん隠れています。花見の機会に、そんな土浦の町並みも探索してみたいはいかがでしょうか？

「行こうかな、どうしようかな。」

近いようで遠いつくばと土浦にある、微妙な心の距離。

私たちは情報という資源を使ってそんな距離を縮める手助けをします。

筑波大学と土浦。

この意外な出会いの場を一緒に作っていきませんか？

【内容】

私たちが計画している活動は大きく分けて以下の2つです

①桜と歴史を探して「花びらマップ」

→私たちが考える土浦の桜・歴史おススメスポットを地図にして無料配布する。

その地図の裏面には、駐車場・コミュニティバス・地域振興券などの情報も記載する予定。

②広げろ！クチコミスポットネット「ちょいブラっとサイト in 土浦」

→土浦にゆかりのある人に、おススメスポットを紹介してくれている写真を撮ってきて貰う。その写真を、筑波大学内での展示・インターネットを通じて情報提供する。

※写真にはおススメしてくれる人にも入って貰う予定。

※時間的・資金的な障害が大きいです。実現出来れば素敵だと思います。

このプロジェクトの魅力は、自分たちの力で一つの街を元気にすることが出来ることです。

こんな経験、この先なかなか出来ないと思います！

何かでかいことをしてみたい、人の笑顔がみたいというあなた。

一緒に挑戦してみませんか？

活動期間

平成22年2月1日～平成22年4月11日

活動計画	平成 22 年 2 月	T-ACT に申請して、メンバー集め 企画の打ち合わせ
	3 月	土浦市役所に企画の説明に行く 写真を集める 写真を展示する
	4 月	活動結果をまとめる
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	久保 倫太郎（芸術専門学群） 高瀬 侑樹（社会工学類） 宮下 将尚（システム情報工学研究科）	
T-ACT パートナー	五十嵐 浩也（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

・活動内容

約 17,000 人にいる筑波大生に土浦の魅力を知って貰う企画を行う

【活動内容】

①土浦ノススメ

→『食（ラーメンとすいーつ）』と『桜』の名所を紹介する

②I LOVE 土浦

→いろんな方に土浦のおススメのスポット・商品を写真を通して紹介して貰う

【スケジュール】

2 月 23 日	ミーティング
3 月 2 日	ミーティング
3 月 6・7 日	まち歩き
3 月 9 日	ミーティング
3 月 14 日	他の地域活性化をやっている人たちと交流
3 月 15 日	市役所の人と交流
3 月 20・21・22 日	まち歩き
3 月 27・28 日	土浦ノススメの作成
4 月 4・5 日	土浦ノススメの作成
4 月 10 日	写真の展示準備
4 月 17 日	写真の展示の片づけ
4 月 26 日	企画のプレゼン
5 月 11 日	活動報告書の作成

・目標達成度

60 点

Good Point!!

- ・土浦の人たちの信用を得られた
- ・協力者を得られた

- ・自分たちが持っている能力を最大限に発揮できた

Bad Point!!

- ・展示などで人が自然と見てくれるようなものを作れなかった
- ・一部でしか土浦の宣伝ができなかった
- ・人集めがうまくいかなかった

・得られた成果

- ・土浦の方々からの信用
- ・協力してくれる仲間
- ・最後までやり遂げた自信

今後の課題

次回の課題は、いかに土浦の人を巻き込むかである。

やはり、土浦のことをやっているのだから、筑波大学の学生だけでなく、土浦の市民の協力が必要不可欠である。

今後は土浦の観光協会、商店街の人たちと協力して企画を考えていくつもりである。そして、その企画の必要に応じて、T-ACT の協力を要請して、メンバー集め、企画の告知を行っていく。

経験者からのメッセージ

自分が考える T-ACT の魅力は以下の 3 つである。

- ①やりたいことをやるためのサポートをしてくれる
 - ▶ 仲間集めのための告知、必要な資料を無料で印刷、企画の相談（弁護士の方にも相談できるらしい）
 - ②外部の人の協力を得やすい
 - ▶ 筑波大学で公認された活動であるため
 - ③面白い人に出会える
 - ▶ T-ACT には、現状に不満があり自ら社会を変えようとする人が集まるので、面白い出会いがたくさんある
- 少しでも、興味がある方は、余計なことを考える前にとりあえず相談に行ってみるべし!!

運営者側から見たパーティシパントの変化

西羅・安井くんについては元々知り合いであったため、始めから自主的に協力してくれた。ただ、彼らの場合は企画に賛同してくれたというよりは、知り合いだから手伝ってくれたという要素が大きい。

田谷くんについては、今回の企画を通して知り合い、企画に賛同してくれ、手伝ってくれるようになった。始めは、受け身な態度であったが、最後の方は、自ら考え、提案・行動をしてくれるようになった。

T-ACT に関する感想

【要望】

- ・企画が認定されるまでの期間の短く
- ・各学類に T-ACT 専用のポスターを貼るスペース
- ・ビラ配りなどの手続きの簡略化
- ・T-ACT をやった人たちの交流会の開催
 - なんか面白い企画が生まれそう
- ・パートナーを見つけるサポート

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 「お母さんの命を守るキャンペーン」 支援 (09039A)

T-ACT プランナー 渡邊 柊子 (国際総合学類)

活動内容

この企画は国連人口基金東京事務所の行う「お母さんの命を守るキャンペーン」を筑波大学で展開するためのものです。このキャンペーンは私の個人的な国際協力・途上国支援活動の一環として始めさせていただきました。現在では15名以上のコアサポーター(署名活動補助者)と同キャンペーン筑波大学実行委員会を構成するまでになりました。

他大学では都内を中心に大々的に活動が行われる同キャンペーンですが、筑波大学ではこれまで国連やNGO関連のキャンペーンやイベントに学生が取り組むということは少なかったと思います。しかし、それは決して国際協力に関心がないということではなく、活動の拠点の不足、都内などに比べて国際協力分野の情報欠如が主な原因でなかなか踏み出せずにいる学生が非常に多いということです。

私は国際協力分野に関心を持ち、筑波大学で自分には何ができるのかを考えてきました。この度、私は国際協力に関心のある全ての学生を巻き込み、このキャンペーンを展開することで、筑波大学における国際協力への道を切り開きたいと考えています。

既に、私は国連人口基金東京事務局の方とコンタクトをとり、筑波大学において講演会・展示会を行うという交渉をさせていただきました。国連職員の方の反応も非常に良く、筑波大学における活動も高く評価いただきました。

筑波大学で非常に大規模なキャンペーンを展開することは、国際協力や途上国支援に向けての大きな道を作ることであります。筑波大学での国連キャンペーンイベント全面的実施の方向(来年の4月末～5月中旬の間で検討中)で、迅速に準備を進めております。

今後、筑波大学において国際協力・途上国支援活動を積極的に行っていきたいと考えていますので、その足掛かりとなる活動であると確信しております。同キャンペーンをT-ACTと位置付けることで、全学へ発信することが可能となり、国際協力に向けての大きな第一歩となると思い、企画申請させていただきました。

(参考)「お母さんの命を守るキャンペーン」とは？

国連人口基金(UNFPA)東京事務所が実施しています。

1分に1人、世界のどこかで、妊娠や出産が原因でお母さんの命が失われています。特に、途上国では産科医療や感染症に関する教育が一時流布十分です。安全に出産できる環境が極めて少なく、また途上国(とりわけサハラ以南のアフリカ)でエイズ患者が病と貧困に苦しむという現状もあります。

このキャンペーンではサポーターを募集しています。お名前を署名していただくだけで、誰でもキャンペーンサポーターとして登録できます。サポーターリストは、キャンペーン終了時に日本政府に提出され、より多くの政府開発援助(ODA)がお母さんの命を守る活動に向けられるように役立てられます。

キャンペーンにはマラソンメダリスト有森裕子 UNFPA 親善大使をはじめ、武田鉄也さん、ものんたさん、坂東真理子氏の賛同もいただきました。

☆12月9日現在、筑波では100名が署名してくださいました！

詳しくは公式HPをご覧ください。→ <http://www.unfpa.or.jp/mothers/index.php>

活動期間	平成 21 年 12 月 7 日～平成 22 年 5 月 31 日	
活動計画	平成 22 年 3 月	活動開始 既存のメンバーを含めて本格的な活動を行う。 他学類、大学院にまで広報範囲を広め、ミレニアム開発目標と同キャンペーンに対する認知度を上げる。
	4 月	勉強会—新入生も含めた、ミレニアム開発目標に関する勉強会を行う。
	5 月初旬	講演会及び展示会—国連人口基金東京事務所の池上清子氏の講演と同キャンペーンに関する展示会の開催
	5 月末	活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる国際協力の在り方、今後の活動の展望などを話し合う。
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	木下 由宇（国際総合学類） 渡邊 亜紀子（国際総合学類） 深江 亜由美（国際総合学類）	
T-ACT パートナー	関根 久雄（人文社会科学研究所）	

活動報告

活動成果

- 平成 21 年 12 月 5 日 代表の渡邊柊子が NPO アフリカ理解プロジェクト主催「1 日集中アフリカ理解講座」に参加、その際に偶然、同キャンペーンを知る。「私たちにできること」としてサポーター登録を行う。
 - 12 月 7 日～ 筑波大学に戻り、さらに自分にできることをやってみたいという思いから、所属の国際総合学類の学生を中心にサポーター登録の呼びかけを開始。開始からわずか 3 日間で 100 名を超えるサポーター登録を集めた。署名活動補助者を募集し、サポーター登録の呼びかけを広めることに。
 - 12 月 17 日 筑波大学実行委員会の立ち上げ、第一回ミーティング
 - 12 月 22 日～ 国連人口基金東京事務所との企画交渉開始
 - 平成 22 年 1 月 27 日 JICA 地球ひろば主催の企画展「マネー、マネー、マネー」関連連続セミナー「経済危機とお母さんの命」に実行委員会メンバーが参加。初めて池上清子所長にお会いし、お話しさせていただきました。
 - 2 月 4 日 T-ACT として正式に筑波大学公認の活動に。(承認番号 09039A)
 - 3 月 9 日 筑波大学イベント開催日程決定
 - 4 月 8 日 国際総合学類新入生を対象に活動紹介
 - 4 月～5 月にはイベント開催準備、広報活動を中心に、全学対象に精力的に活動。
 - 5 月 7 日 イベント開催
- 「国連ミレニアム開発目標勉強会～世界がもっと幸せになるために～」
当日は 24 名の方が参加してくださいました。世界の現状、ミレニアム開発目標とは何か、インドフィールドワーク報告（インド最貧困層の孤児のうち重度障害を持つ子どもたちのケア活動報告）、

同キャンペーン概要について、代表の渡邊柊子がお話しさせていただきました。

筑波大学において国際協力アンケートを実施した際、ミレニアム開発目標の認知度が極めて低かったことから、国際開発の柱であるミレニアム開発目標に関する勉強会の実施を決意。国際総合学類だけでなく、社会学類、看護学類や応用理工学類、大学院生など幅広い層の学生が参加していただき、有意義な勉強会となりました。

○5月10～14日 イベント開催

展示会（中地区第3エリア3A棟1階ラウンジにて）

「お母さんの命を守るキャンペーン」を中心として、人口と開発、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、ジェンダーの平等、人道支援活動、妊産婦の健康、若者と青少年への支援、HIV／エイズ予防、女性と開発などのパネル展示を行いました。

○5月14日 講演会（中地区第3エリア3A棟401号室）

国連人口基金東京事務所池上清子所長をお招きして

「お母さんの命を守るキャンペーン～私たちに出来ること～」

世界では1分に一人の妊産婦が亡くなっている世界の現状とその原因などに関して池上清子所長による講演が行われました。

途上国、とりわけアフリカでは医療サービスや設備の質が低いだけでなく、文化的に女性の地位が低いと、望まない妊娠や若年出産により多くの妊産婦が命を落とすという深刻な現状があります。講演会の最後に池上氏は、一人ひとりにこういった途上国の現実を知ってもらい、自分たちができることを考えてほしいと呼びかけました。

今後の課題

●問題点

オーガナイザーの人数が少なく、中心メンバーの仕事量が偏って多くなっていたこと。メンバー全体での情報共有や進行状況把握が難しかったこと。

●改善策

意識的に時間を作ってメンバー内の活動内容を共有すること。メンバーと各人の活動内容について調整を行うこと。

経験者からのメッセージ

企画・運営は予想以上に大変でした。私自身、上手くメンバーに仕事を割りふれなかったり、メンバーの活動の進捗状況を把握するのが難しかったりと、様々な困難がありました。こうした企画のプランナー（リーダー）を務めるのは初めてだったので、戸惑いや焦りも何度も感じました。

しかし、一人でできることは限られているからこそ、協力してくれるオーガナイザーと連携して活動を進めることが重要になってくると思います。ひとつの企画や人をまとめることは大変なことがたくさんあって、つらい時もありますが、問題に直面したら、自分の中だけではなくて、信頼できる仲間と一緒に解決していくよう心がけましょう！私自身、問題点を仲間に伝えていくことで、自分が思ってもいなかった解決策や対策が浮かび上がってきましたし、なんとかピンチも切り抜けることができましたと思っています。やはり、メンバー間で密にコミュニケーションを取ることは大切です。

たいていの失敗はやり直せるものだから、あきらめないで最後まで頑張ってください！T-ACT コンサルタントの先生方も力強いサポーターになってくれますよ！

運営者側から見たパーティシパントの変化

国際協力に関心なかった学生や関心はあっても行動するきっかけがなかった学生を巻き込んで活動できたと思っています。具体的にどのような活動が開発途上国に効果的な援助となるのかといったテーマについて意見交換したり、積極的に活動に携わってきてくれるようになったりと、パーティシパントのパワーを感じられました。

これから自分なりに国際協力に参加するきっかけをつかんでくれたのではないかなと思っています。

す。このキャンペーン支援が終わっても、また違う形で、自分らしく国際協力を行っていただければ、プランナーとして非常に嬉しいです。

T-ACT に関する感想

行き詰った時に、様々なアドバイスをいただけて、本当に助かりました。時間外にも対応していただき、企画内容の相談から物品の貸し出しまで幅広いサポートをしていただきました。ありがとうございました。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 『つくば丼』プロデュース計画 【第1弾】(09043P)

T-ACT プランナー 佐藤 純(人間総合科学研究科 講師)

活動内容

筑波大学名物「つくば丼」こんなものがあったら、一度は食べてみたいと思いませんか？
旅行の思い出に食べ物話が欠かせないように、食はその場所と強烈に結び付きます。しかし、今の筑波大に関係する皆が共有できる食文化があるのでしょうか？ありません。でも今作れば、10年後には卒業生と受験生、さらには留学生がともに話せる文化にできるかもしれません。創りましょう。みんなで「つくば丼」を！

具体的には、「つくば丼」レシピコンテストを行います。1次審査委員を、学生代表数名、留学生代表、学生生活支援室長(未承諾)、栄養学の先生、芸術系の先生、食堂のクックさん等の方々に依頼し、「美味しい、新しい、ヘルシー」な丼のレシピを選んでいただきます。

そこで選ばれた2~3種類のレシピを、実際に作れるかどうか、利益が出るかどうか、などを専門の方に検討していただき、商品化してもらいます。

2次審査は、その「つくば丼」候補を一定期間、食堂等で提供していただき、その販売数と投票で最優秀つくば丼を決定します。

最終的に選ばれた「つくば丼」は、ご協力頂ける食堂、飲食店で商品としてメニューに加えてもらいます。権利等は行使せず、「筑波大学」や「つくば」の名物として広く使ってもらうことに主眼を置きます。細かい点については弁護士に相談します。

レシピ開発者の名前(ニックネーム可)は、レシピとともにホームページ(www.298don.com)で永続的に公開される。審査協力頂いた飲食店は、「元祖」を名乗ることを許可します。

募集オーガナイザー

企画を読んでワクワクした人、料理が好きな人、WEBに詳しい人、裏方仕事が好きな人、絵を描くのが好きな人、時間がある人。。。

活動期間 平成22年7月1日~平成22年12月31日

活動計画

平成22年5月	活動開始 オーガナイザー随時募集。アイデアを固める 協力飲食店や専門家への交渉
6月	レシピコンテスト募集開始(その前から広報)
7月~8月	2次審査のための準備。会場、広報など
9月	レシピコンテスト募集締切
10月	審査会→結果発表
11月	2次審査の広報

	12月	2次審査（食堂での投票開始。期間1週間程度。） 審査結果発表 【第1弾】活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。
備考欄	実は、【第2弾】、【第3弾】もあります。 さらに、次企画“『つくばサンド』開発計画”についても検討を進めています。	
T-ACT オーガナイザー	加瀬 裕己（心理学類）	
T-ACT パートナー		

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4月某日 ホームページを開設
 - 9月22日 総合科目にて活動趣旨の宣伝
 - 11月某日 学類の授業にて宣伝
- しかし、実施なし。

・目標達成度

10%

根拠：活動としては実施できなかったのですが、「つくば井」という謎のキーワードを目に耳にする人は多かつたらしく、寄せ餌的效果はあったように思われることから。

・得られた成果

上記の寄せ餌的效果の一つとして、強力な協力者が出現し、時期プランでのオーガナイザーが見つかったこと。そこから機動力のある数名のオーガナイザーがさらに紹介されるにいたったこと。

今後の課題

仕事に忙殺されて、実際に実行する余裕が物理的にも精神的にもなかった。

オーガナイザーをある程度確保した上で実行しておく必要があったと思われる。

経験者からのメッセージ（未来のT-ACTプランナーにアドバイスを！）

結局実施できなかったわけですが、それでも、多くの人と「つくば井」を通してコミュニケーションができました。実施していなかったのに。これが、本当に実施したらどうなるんだろうと思います。

そこは私にとって未知のゾーンですが、来年度は体験したいと思います。一緒にやるかい？

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加させられず、申し訳ない。

T-ACT に関する感想

申し訳ない。

来年度こそはプラン実施に向けてがんばります。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 Table For Two in つくば～学食で飢餓と飽食の同時解決!?!～ (10001A)

T-ACT プランナー 秋山 キナ (国際総合学類)

活動内容

- ・ 開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に大学の学食を通して同時に取り組む社会貢献活動の推進
- ・ より多くの学生に TFT を知ってもらうための宣伝活動、および TFT を導入してくれる食堂を増やす

活動期間 平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日

活動計画

平成 22 年 4 月	3 学食堂で 2 週間イベントを実施し、特に新入生に向けて TFT をアピールする。
5 月～ 8 月	9 月に予定している TFT メニューの試食会、または講演会の準備。他は未定
9 月	試食会 or 講演会の実施
通期	新たな TFT 導入先の開拓、新規メンバーの確保

備考欄

T-ACT オーガナイザー 明神 将也 (社会国際学群国際総合学類)
船山 舞 (社会国際学群国際総合学類)

T-ACT パートナー 大久保 一郎 (人間総合科学研究科)

活動報告

活動成果

・ 活動内容

4 月 7 日～ 20 日 3 学食堂で新歓イベントとして TFT メニューを毎日導入。

500 食売上げ、つまり 500 食分の給食をアフリカの子供たちに届けることができた。

4 月 30 日 今年度初のミーティング。メンバーの増加に伴い定期的にミーティングを開くことを決定。

5 月 13 日 ミーティング。講演会開催に向けて。

5 月 14、21 日 粉とクリームに導入交渉

5 月 27 日 ミーティング

6 月 10 日 ミーティング

9 月 24 日 ミーティング。講演会取り止め。

4 月の 2 週間で 500 食売れたことは大きな成果である。アフリカの子供にも 500 食届けることができたことがうれしい。その後、講演会を実施する予定で準備を進めたが、コアメンバーが二人抜けたこともあり、講演会は取りやめた。4 月以降は目立った活動成果ができなかったが、9 月後半になっ

て新メンバーが3, 4人入ったので、また動き出す予定だ。

今後の課題

メンバーが増えつつあり、かつ今までの活動してきた人があまり残っていないので、ミーティング等で情報共有すべき。

今期は活動が少なかったから、新しいメンバーを取り込んでもっと活動したい。

経験者からのメッセージ

正直、企画の運営は難しいです。でもやりがいがありますよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

徐々にメンバーが増えている。

T-ACT に関する感想

特にありません。またよろしくお願いします！

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 変活 2010 (10003A)

T-ACT プランナー 松田 悟 (生命環境科学研究科)

活動内容

“変活”とは変化のための活動である。昨年度末に変活として異学類交流会が執り行われた。本企画は、昨年度の変活に続く活動である。人は自分以外の多様な人々と交わることで、自分の中にはない新しい価値観に出会う。この新しい刺激は人に様々な“変化”を与えてくれる。この“変化”を目的として本年度も変化のための活動を立ち上げようというものである。

筑波大学には多様な学生が在籍しており、様々な学類・団体が存在している。しかしながら、多くの学生は交流の場をサークルや部活動、学類などの限られた人物・ネットワークに依存してはいないだろうか。学類・団体を超えて多くの人と交流を図ることができる総合大学としての強みをもちながら、この総合大学“筑波大学”を我々は活かしていきたくないと感じる。現在の環境から一歩踏み出して、より多くの人と交流する場を持つ機会が必要ではないかと考える。この機会は自身の視野や人脈を広げることにつながり、今後の研究活動や進学・就職活動に資するものと考えている。

そこで本企画では、多様な学生がいる筑波大学という利点を活かし、筑波大生の変化の場を提供する。また、本企画において“変わらない自分”に出会うこと、改めて確認することも変化とする。

活動期間 平成 22 年 5 月 6 日～平成 22 年 12 月 17 日

本企画では月 1 回のワークショップを目指す。オーガナイザーなどとの週 1 回のミーティングを通じてワークショップのテーマを設定し、その準備を行う。テーマの方向性としては特に定めず、オーガナイザーの意見を反映させる形をとり、多様なテーマを扱うことができるよう配慮する。また、ワークショップ後のミーティングでは反省会を行い、次回のワークショップ運営に反映させる。

活動計画

平成 22 年 4 月	申請を行う
5 月	活動開始 オーガナイザーを集め打ち合わせ等。参加者を募集する
6 月初め	第 1 回ワークショップ開催 第 1 回は、昨年度「変活」を立ち上げた小笹諒介氏をはじめとした学生起業家に参加して頂き、話をしてもらう。その後、自分たちの夢や可能性をキーワードにワークショップを行う。今まで触れ合う機会がなかったであろう同じ大学に通う学生の価値観を共有する。近頃は“就職氷河期”といわれるなど、就職が少ないことがいわれている。その中で「職に就く」のではなく「職をつくる」という道を拓いた人の話を聞くことでも、今後の学生生活、就職活動における考えなどに変化を与えようとするものである。

6月上旬	反省会等 第2回以降のテーマについては今後のミーティングで決定する 年内の活動を予定しており、終了時に活動報告書をまとめる
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	折居 拓磨（生命環境科学研究科）
T-ACT パートナー	田村 憲司（生命環境科学研究科）

活動報告

活動成果

6月1日

参加者から次はいつやるのかという話があり、企画に対しての期待感が得られてきた。

10月29日

ドリームメイキング観覧

・得られた成果

事業プランの提案者と社長のやりとりから起業する際に詰めなくてはいけない事項にはこんなことがあるのか…。というものを感じた(氷山の一角であろうが)。学生と社会人の「差」を感じた。といった感想を聞いた。

11月12日

「世界平和のツールとしての“農業”を考えよう」

少し専門的に農業について学んだ人とまったく専門外の人がみんなで一緒に考えるという形式。このため少人数制で行った。

・得られた成果

学生がなぜ就農をしないのか？ということに対して「誰でも出きるから。おじいちゃんでもできるし。」といった農業が専門外の学生の意見に農業を専門とする学生の視野が広まった。確かに、「誰でもできる」と考えているならば高等教育を受けてまで……。という気持ちはあるのかもしれない。専門分野に首を突っ込むとやはり頭が固くなってしまうことがあるのかもしれないということを見た

今後の課題

基本的な活動のスタンスとして「生じた問題や困難」を問題・困難としてとらえるようにできていない、いわゆる問題や困難にぶち当たるからこそその「変化」だと考えてしまったことがある意味課題であるのかもしれない。

経験者からのメッセージ

授業時間帯と被ると参加者が少ないという現実に出会う。

運営者側から見たパーティシパントの変化

考え方に劇的变化。

T-ACT に関する感想

大変お世話になりました。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 キャンパスツアー（大学案内）でのキャンパスアテンダント体験第三期（10004A）

T-ACT プランナー 酒井 佑弥（情報メディア創成学類）

活動内容

筑波大学のキャンパスツアーを行うことを軸として、筑波大学を目指す受験生を応援するために立ち上げられたプロジェクトです。現在、高校等からの要望を受けての大学案内は、大学職員の方が行っていますが、ここはやはり元々受験生だった現在の学生である我々が、大学案内をしてあげたいと思い、この活動を行っています。1回の活動につき、およそ2時間～4時間。朝もしくは昼前ごろから始まり、昼食を挟んで午後まで活動する場合や、午後の2時間程度の活動となる予定。メインメンバー（オーガナイザー）基本的に毎週水曜日の6限目に定期ミーティングを行う。また活動によっては臨時ミーティングを行う場合有り。キャンパスアテンダント（パーティシパント）は、自分の参加する（したい）活動に該当するミーティングには必ず参加、定期ミーティングは任意。

内容としては、筑波大学を目指す受験生に向けて、学生側から筑波大学を案内しながら紹介（キャンパスツアー）し、また学生生活について、授業内容に関して詳しく紹介したり、学内主軸は以下の三つとなります。

- ・広報室によるキャンパスツアーの同行（大学広報室の方と一緒に行動、受験生のお世話などのお手伝い）
- ・キャンパスツアー（私たちがツアーを計画し案内します）
- ・高校生との対話（教室などで受験生の質問などに答えたり、学生生活などを教える）

【募集対象者】

パーティシパントのお仕事は、活動日の当日に大学広報室の方やメインメンバー（オーガナイザー）の助っ人として活動して頂くメンバーです。受験生に対して筑波大学の代表として実際にもてなす重要な役割です。組織内ではキャンパスアテンダントと呼びます。

オーガナイザーは主だって活動するメンバーで、組織運営と案内する側・される側のマネジメント、企画と当日の運営をします。キャンパスツアーでは、先導する係ともなります。

※どちらも大学による学生アルバイト（2時間分、約1600円）昼食代として支給します（後日銀行振り込み）

活動期間 平成22年4月20日～平成22年10月20日

活動計画

【T-ACT3期目での活動計画】

今期からは主にオーガナイザー（メインメンバー）を集中的に集めたい。というのも、やはり運営していく人が慢性的に少ないこと、パーティシパントとして登録してもらっても結局活動出来なかった人が居たこともあり、やはりメインメンバーから集めてパーティシパントをうまく動かせる組織作りをしていきたい。

活動計画

前期には、活動日の対処をまとめたトラブルシューティングマニュアルを作成し配布することで、ある程度パーティシパントを教育しなくとも本当に当日来て貰って活動しても、こちらもあるていど安心して任せられるような体制づくりが出来た。次は、それらをもっとマッシュアップすることと、実際にやってもらった感想などをきちんと外へ向けて情報発信することで、更にメンバーを集められるようにしたい。

尚、外への情報発信には、前期中にブログ (<http://ca.kerox.info/>) を整備した。しかしまだ更新等をみんなが行えるような形にはなっていないので、簡単なマニュアルなどをまとめて、オーガナイザー達が簡単に更新できるような準備を行っていききたい。

また、少しながらだが、メンバーが増えて来ており活動自体を増やしても大丈夫な余裕が生まれてくると思うので、どんどん活動を行っていききたい。

【活動期間中の流れ】

・活動前

キャンパスツアー等の案件が広報室から来たら、キャンパスアテンダントへ告知、参加募集を開始し、活動日に合わせて参加してもらう。活動内容によっては、臨時でミーティングを開き、参加者全員で打ち合わせを行う。

・活動日

当日は30分ほど前に集まって打ち合わせを行う。「当日のしおり」として行程・来学校詳細・緊急連絡先・注意事項などを記載した紙と、「キャンパスアテンダントマニュアル」、「トラブルシューティングマニュアル」を配る。また、そのときに今後の連絡用として、参加名簿を記入してもらう。メインメンバーは随時、リーダーとして、パーティシパントを指揮する。パーティシパントは行程が円滑に進むようがんばる。

受験生とのふれあいを通して、昔の自分を思い出して精一杯アドバイスなどをしていただけたらと思う。

・活動終了後、反省会

行程がすべて終了した後は、一端解散。時間を調整して再度集まり、反省会を行う。

その日の反省と感想を頂き、今後のノウハウとしてまとめる。

また、昼食代入金手続きのための書類「振込先等登録依頼書」及び「略歴書」を記入してもらう。

後日書類を広報室へ渡し、昼食代の入金手続きをして頂く。反省と感想をまとめ、ブログにて情報発信も行う。

・定期ミーティング

活動後の場合は、メインメンバーとしての反省を行う。

また、次の活動への準備や、更なる広報活動のための打ち合わせ等を行う。

・説明会

定期ミーティングを臨時に説明会に何時でもできるようにしておき、キャンパスアテンダントを知りたいという参加者を何時でも受け入れる。

<p>活動計画</p>	<p>・ T-ACT 期末 キャンパスアテンダントから提出して貰う反省と感想文や、今期での活動の反省、当日の活動記録写真などをまとめて、T-ACT への活動報告書を作成し提出する。 次期に向けた狙いなどを定期ミーティングにて定める。</p> <p>【目標として】 この活動を体験してもらい、受験生とのふれあいが持てる、もしかすると目の前に昔の自分が居るかもしれない。そんな受験生のちょっとした助け船になれる活動がある、というのを知って貰いたい。 また、キャンパスアテンダントは筑波大学を代表することになるため、責任感も伴う活動となる。しかしやり遂げた後の達成感や、やり甲斐を感じて頂いて、ボランティア活動も良いものだと思って貰いたい。 それに、普段は行けないような大学内の研究所や施設を一緒に見学することが出来るので、いつも通っている筑波大学の再発見にも繋がればと思う。</p>
<p>備考欄</p>	
<p>T-ACT オーガナイザー</p>	<p>影山 啓太 (知識情報・図書館学類) 辺見 知代 (知識情報・図書館学類) 榊原 敬治 (物理学類) 小林 健一郎 (情報メディア創成学類) 伊藤 一成 (教育学類) 妹尾 文香 小林 映里奈 萬徳 真以子</p>
<p>T-ACT パートナー</p>	<p>生井 栄 (広報室)</p>

活動報告

活動成果

期間中以下の活動を実施した。

- ・ 4月21日 福島県立磐城高校
- ・ 5月19日 山形県鶴岡市立鶴岡中学校
- ・ 7月8日 茨城県立麻生高校
- ・ 7月9日 東京学館高校
- ・ 9月14日 茨城県立総和高校
- ・ 10月21日 茨城県立三本松高校
- ・ 10月27日 茨城県立日立北高校
- ・ 11月10日 茨城県立取手第一高校

人数を集めるのに苦労したが、キャンパスアテンダントとしての参加者を募集して、実施することが出来た。広報室の大学案内に同行という形で、昼食時の各食堂の案内や、中央図書館の案内を行った。

東京学館高校や総和高校の案件では高校との予定が合わず柔軟に対応する必要があった。取出第一高校の午後からの活動で、メンバー中心となって高校生を案内することが出来た。

参加人数が増えたので昼食時のフォローも多くできるようになった。いずれにせよ行程はやり遂げ

られたが、様々な問題が浮かび上がってしまった（今後の課題欄に記入）。

今後の課題

- ・時間に追われることが多いので、余裕を持った活動はしづらいが、それも醍醐味か？しかし昼食の時間も少ないと食べるのに追われて何も会話出来なかつたりするのでどうにかしたい。
- ・昼食時の席の確保や、時間帯の変更の打ち合わせなどを行うように計画している。
- ・学校によって雰囲気の違い、どのように接したらいいのか戸惑う場合が多々見られる。文系・理系に分けた際にも、男子・女子と分けた際にもやはり違うので、その辺はもう経験をため込んでいくしかないのだろうか。
- ・受験生との対話では、質問が上がらない際の対処をどうするかを決めておかないと本当に何も質問が来ないときにこちら側が詰まる。そんなことが無いのが望ましいのだけれど、残念ながらそうはいかない。
- ・誘導中、列が乱れに乱れるし周りを見ようとしなない為、自転車との接触など流石に恐怖を抱かざる終えない場面も見られた。交通安全指導員では無いのだが、指導するほか無いのだろうか…。
- ・学生が案内しているが、だからといって興味を引けるとは限らない。しかしやはり、施設の紹介をしている時、話を聞いてくれないのは残念。
- ・キャンパスツアーの際にはCAの体調管理も気をつけたい。
- ・何も知らない人には敷居が高そうに感じる、たとえば受験生に大学を説明するとか、そういう風に見えるようなので、広報活動も改め直したい。
- ・高校1年生が相手だと、対受験生という心構えをしていくと拍子抜けしてしまう面がある。ただ、大学というところに興味を持ってもらえるようするだけでも良いと思っているので、こちら側もあまり気張らず、良い意味で気軽に接していきたい。
- ・文系・理系が一緒のグループを案内すると、片方が興味持てない分野になった時かわいそうかも？。
- ・受験生のグループ内で会話をしてしまい、私たちが近くにいっても誰も話しかけてこない。悲しいが人見知りしているだけ、なのだと思っておく。
- ・興味が無い子に興味を持たせることは難しいし、それが簡単ならば学校教育はうまくいくのだと実感できた。どうしようもないのだろうか？
- ・もっと人数が欲しい。最大限やっているが、どうもあと1歩引きづり込むような、学生を釣る何か欠けている？ようだ。ポスターを改良したり、更なる告知手段の模索を続けたい…。

経験者からのメッセージ

人さえ集まれば、だいたいうまくいきます。人を集めればいいと思います。資金に困っているうちが花だと思います。お金で解決するなら、簡単なので…。

運営者側から見たパーティシパントの変化

上記のような手厳しい評価の反面、自分も確かにそうだったという話で、本当に大学を志すのはおおむね高校3年の夏休み以降みたいなので、まあいろんな意味で仕方ない部分があるのは確かだという声が上がった。また、やっぱり分からないでもないもので、当時はああだったこうだった、という会話で盛り上がるなどした。

そしてやはり、疲れるが楽しかった・面白かった、久々に自分より下の年の子とふれ合えて刺激的だった、懐かしかったという声はずいぶん聞かれたし、その中に一人でも筑波大学に入りたいと言ってくれた子がいると、かなり充実感が得られるのは間違いないようだった。

また、集まったパーティシパントも積極的に活動して頂ける方々ばかりで、大変助かった。

T-ACTに関する感想

『T-ACTは楽しそう』な雰囲気を作ってください！

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 学校図書館に興味のある人で集まりませんか？（10005A）

T-ACT プランナー 松本 圭以子（図書館情報メディア研究科）

活動内容

「学校図書館に興味がある人」「学校図書館で働いている、もしくは働きたいと思っている人」「学校図書館について研究を行っている人」・・・なかなかこのような人たちが集まる機会がない。そこで、このような人たちと交流を図るため茶話会を行いたい。

活動期間 平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日

活動計画

平成 22 年 4 月	活動開始 開催場所と日時を決め、広報用のポスターを作成する
5 月	参加者募集を開始する。ポスターを掲示する
6 月	茶話会開催、その後活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄 協力団体：SLiic Project

T-ACT オーガナイザー

大作 光子（図書館情報メディア研究科）
あべ松 幸彦（知識情報・図書館学類）
中園 長新（図書館情報メディア研究科）
室田 一憲（図書館情報専門学群）
根岸 拓也（図書館情報メディア研究科）

T-ACT パートナー 緑川 信之（図書館情報メディア研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

4 月 21 日	企画承認
4 月 30 日	生命環境科学研究科支援室教務係にて 2C409 教室を借りる。
5 月 4 日	掲示用ポスター原案完成
5 月 12 日	15 時 30 分よりミーティング。
5 月 14 日	T-ACT にてポスター印刷を行う。
5 月 17 日、18 日	ポスター掲示
5 月 19 日	電光掲示板用ポスター原案完成
5 月 24 日	T-ACT に電光掲示板用ポスターのデータを送付する。

5月26日	15時よりミーティング。
5月28日	14時よりミーティング。
6月9日	16時よりミーティング。
6月16日	イベントの実施

・目標達成度

達成度は6割である。当初の目的では春日地区以外の学生の参加を見込んでいたが、結局春日地区の参加者しか集まらなかったこと、参加人数も思っていたよりも集まらなかったことが理由として挙げられる。

・得られた成果

2時間という限られた時間の中で、「選書に用いられる手段としてどのような物があるのか」「図書室をあまり利用したい子たちに使える魅力的なPR作戦にはどのような物があるか」「図書委員会でどれだけ仕事ができるか」といった質問に関して意見交換を行った。その結果、「司書教諭はあまり知られていない存在である」「図書委員は何気に仕事をこなしている」「選書には様々な手段がある」といったことが分かった。また、「今後このような茶話会に参加したいか」と尋ねたところ、全員から「参加したい」という回答があり、またぜひ開催したいと思った。

今後の課題

準備段階では早いうちに掲示板用のポスターや電光掲示板を作成し貼ることができた。ただ、T-ACTにパーティシパントとして登録してくれる人がなかなか無く、開催当日も声かけをしてみたが、あまり参加者は増えなかった。もっとビラまきなどの積極的なPR方法を展開すべきであったと反省している。

開催当日であるが、司会者とファシリテータとの打ち合わせが不十分だったため、当日進行の中で「次はどうしようか」という話をする有り様だった。参加者が当日になるまで分からなかったため、どのような意見が貰えるのか分からず当日実際やってみてから判断しようということが多かったためというのが原因として挙げられる。今後は、いくつかの進行パターンを予測して対処したい。

経験者からのメッセージ

これまで掲示物を貼るためには書類を提出しなければならず、結構大変だった。T-ACTを活用することで、春日キャンパスだけでなく学内すべてに掲示することができた。ぜひT-ACTを活用してほしい。

プランナー・オーガナイザーから見るパーティシパントの変化

開催当初、初めて会うということもあり、打ち解けるまでに時間がかかっていたが、会の終わりのほうになると、積極的に輪に加わり話せるようになっていた。

T-ACTに関する感想

T-ACT自体の存在があまり知られていないようで、オーガナイザーやパーティシパントに登録する方法すら分からないという人もいた。(実際T-ACTのサイトさえ知らないという人もいた。)もっと広報して認知させてほしい。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 学校図書館司書と一緒に学校図書館運営に役立つコンテンツを作ませんか？ (10006A)

T-ACT プランナー 松本 圭以子 (図書館情報メディア研究科)

活動内容

学校図書館に興味がある学生や、学校図書館について研究を行っている教職員等を対象に、実際に学校図書館で働いている現職者も参加して、1泊2日のスケジュールの中で意見交換会や情報交換などにより交流を深めることを目的とする。そこで、開催までのコンテンツの作成準備やおりの作成を手伝ってくださる方や、当日一緒にコンテンツ作成や現職者との交流に参加してくださる方を募集したい。

活動期間 平成22年4月1日～平成22年8月31日

活動計画	平成22年 4月	活動開始 活動場所を予約する
	5月	参加者募集開始
	6月	参加者募集締切
	7月	しおりを作成し、送付する
	8月	21、22日開催。その後、活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄 協力団体：SLiic Project

T-ACT オーガナイザー
 大作 光子 (図書館情報メディア研究科)
 室田 一憲 (図書館情報メディア研究科)
 根岸 拓也 (図書館情報メディア研究科)
 佐浦 敬之 (図書館情報メディア研究科)
 小山 祥恵 (図書館情報メディア研究科)
 中園 長新 (図書館情報メディア研究科)

T-ACT パートナー 緑川 信之 (筑波大学図書館情報メディア研究科)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 3月30日 八王子セミナーハウスを予約する。
- 5月11日 企画承認
- 5月12日 15時30分よりミーティング。

- 5月26日 15時よりミーティング。
- 5月28日 14時よりミーティング。
- 6月9日 16時よりミーティング。
- 6月16日 茶話会実施。最後に合宿の広報を行う。
- 7月7日 13時よりミーティング。
- 7月12日 T-ACTにてポスター印刷を行い、電光掲示板用ポスターのデータを提出する。
- 7月14日、15日 ポスター掲示
- 7月31日 しおりが完成する。
- 8月5日 八王子セミナーハウスに宿泊予約の確定と食事予約の連絡を行う。
- 8月9日 しおりを印刷する。
- 8月10日 しおりを参加者に郵送する。T-ACTに参加者名簿を提出する。
- 8月19日 13時よりミーティング。Camp前最後のStaff打ち合わせを行う。
- 8月21日、22日 イベント開催

・目標達成度

達成度は8割である。前回の茶話会では春日地区以外の学生の参加は無かったが、今回は初めて春日地区以外から参加者があり、参加人数も思っていたよりも集まったことが理由として挙げられる。

・得られた成果

1泊2日という限られた時間の中で、現職の学校図書館司書と共に「子どもレファレンス事例集」「既存コンテンツの整備」を行った。また、「ライトニングトーク」といった意見交換を行い、現職者は1学期間に行ってきた仕事内容について、学生は自分の研究内容について、それぞれ発表した。SLiiCとの共同開催ではあったが、とても有意義で充実した2日間であった。また、「今後このような合宿に参加したいか」と尋ねたところ、全員から「参加したい」という回答があり、またぜひ開催したいと思った。

今後の課題

準備段階では茶話会よりは遅めに掲示板用のポスターや電光掲示板を作成し貼ることになってしまったが、ポスターを掲示してすぐに参加申込があったりと掲示したことでの成果を肌で感じる事ができた。

開催当日であるが、どのプログラムも交通渋滞やその日の体調等もあって遅らせて開始させるを得ないこともあり、結構詰め詰めで進行してしまいちょっと大変だったかもしれない。今後は、いくつかの進行パターンを予測して対処したい。

経験者からのメッセージ

T-ACTを利用することでこれまでよりスムーズに掲示物を貼ることができたおかげで、春日地区以外からも参加者が来てくれた。それぞれの地区だけではなく全体に呼び掛けたい場合は、T-ACTを利用すると便利だ。ぜひT-ACTを活用してほしい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

開催当初、初めて会った現職者と話すことに照れがあったようだが、昼食やその後の作業を通して打ち解けたようで、自ら発言したり行動したりするようになっていた。本人に感想を聞いてみたところ、「楽しかった。また参加したい。」と言ってもらえることができ、こちらも嬉しくなりました。

T-ACTに関する感想

T-ACT自体の存在があまり知られていないようで、オーガナイザーやパーティシパントに登録する方法すら分からないという人もいた。(実際T-ACTのサイトさえ知らないという人もいた。)もっと広報して認知させてほしい。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 “つくバグ” 子供たちと昆虫採集をしよう。(10007A)

T-ACT プランナー 上原 拓也 (生物資源学類)

活動内容

「虫取りに行ってくる。」虫取りといえば子供の遊びの代名詞的存在であった。ところが最近の子供たちの会話に耳を傾ければ、「昆虫って気持ち悪い」「土を触ったことがない」「雑草なんて全部一緒だよ」という言葉が大半である。昆虫少年・少女は今、絶滅に瀕している。

このような現状を危惧する声は小さいであろう。生き、生かされるという大きな相互作用の渦をなして存在している環境。それを理解する上で昆虫採集、自然観察に勝るものはない。とりわけ昆虫採集はこの上ない教材であり、子供たちがこれから環境を身近に感じ、また自然に触れる為に、今こそ保全に取り組むべきではないだろうか。

そこで我々は昆虫採集からみた自然観察の楽しさや発見の喜びによって生まれる興味や知識の獲得、それによる将来の日本の環境問題を考えていくことのできる人材の育成を目標に本プロジェクトを企画した。

活動期間 平成22年5月11日～平成22年11月11日

本プロジェクトではつくば市内の小中学生を対象に、昆虫クラブを開講し、子ども達と昆虫を採集し、標本を作製するという活動を通し環境の尊さ、自然に対する驚きや発見を肌で体感させ、「自然って面白い!」「昆虫触ってみてもいいかも!」と子どもが思うきっかけ作りをしていきたいと考えている。また活動は観察だけで終わらせないよう講義形式の会も開き、単なる昆虫好きの育成ではなく、広い視野で環境を観ることができるようプログラム作りを行う。

活動計画

平成22年5月	活動開始
～6月	メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る 昆虫教室の募集資料づくり、つくば市内の小・中学校へ配布
7月～11月	小・中学生の夏休みに合わせ、昆虫教室を開講 以降、2ヶ月に一度くらいのペースで教室を行う 教室終了後、その都度反省会を行う

備考欄 社会貢献プロジェクトで予算を頂きました。

T-ACT オーガナイザー

山口 芽衣（生物資源学類）
 藏満 司夢（生物学類）
 加藤 大智（生物学類）
 小嶋 佑果（生物学類）
 内海 邑（生物学類）
 中村 篤史（生物学類）

T-ACT パートナー

本田 洋（生命環境科学研究科）

活動報告

活動成果

- 4月19日 第一回つくバグ MT（T-ACT 申請前）
 5月10日 第二回つくバグ MT
 ・ 以後の予定について ・ 担当の係決め
 ・ 予算について ・ T-ACT 申請状況（うえ）
 5月19日 第3回つくバグ MT
 ・ ポスター案提示（やま）
 6月5日 第4回つくバグ MT
 6月11日 第5回つくバグ MT
 ・ 予算最終審議 ・ ポスター決定
 6月14日 第6回つくバグ MT
 ・ 新メンバー顔合わせ ・ 企画の概要を説明
 6月21日 第7回つくバグ MT
 ・ 企画内容について ・ 観察会の実施について
 ・ 夜の昆虫採集会について（大学生参加者向け）
 ・ 広報について
 6月26日 第1回観察会 10:00～
 虹の広場にて
 チョウ目中心に十数種が確認できる。
 7月2日 第8回つくバグ MT
 ・ 25日当日の流れについて
 ・ 観察会について ・ 救命講習会について
 7月11日 第2回観察会
 7月12日 普通救命講習
 第9回つくバグ MT
 7月19日 第10回つくバグ MT
 7月25日 第1回つくバグ

虹の広場で観察を行った後、教室で標本の作り方の講習を行う。

活動内容

昆虫採集を通して、子供に自然の大切さや不思議を肌で感じてもらいたいという当初の目的を達成するため、児童との自然観察会を行った。またそれだけでは“大人”である我々は楽しんで虫捕りができないので、同時に筑波大学内の昆虫の調査を行った。その結果をまとめ観察会に生かす取り組みである図鑑作りも並行して行った。

◎観察会概要

児童との自然観察会（通称：〇〇バグ、〇〇には季節が入る。）

- ・なつバグ（夏の昆虫観察会）

実施日：7月25日

場 所：虹の広場

概 要：当日、午前中は広場を散策しながらの昆虫採集。午後は採集した虫を標本にした。

- ・大曾根児童館での観察会

実施日：8月19日

場 所：大曾根児童館、付近の屋敷林

概 要：午前中は観察会を行い行った。なつバグと異なり、参加してくれた児童の大半が小学校低学年であったため、午後は採った蝶を用いてしおり標本を作製した。

- ・あきバグ（秋の昆虫観察会）

実施日：10月31日（台風接近の為中止）

場 所：虹の広場

概 要：午前中は虹の広場の散策を行い、落ち葉を掘り返したり朽木をどかしたり、夏バグとは異なった手法で虫の生活の様子を覗く。午後は見つけた虫や事前に準備した写真をよく見ながらスケッチを行う。以上のような予定であったが当日は台風の接近により中止とした。

まとめ

観察会を行うに当たっては危険面、進行の方法、教材の内容の検討や、資料、当日使用する道具の作製を行った。とくに危険面では人様のお子様を預かるということで、法律家の方ともお話をさせていただき綿密に準備を行った。

普段、虫の扱いには慣れている私たちも、子供の扱いや虫の事を教えることは初心者であり、観察の際に用意していた内容をきちんと伝えきれない場面もあったのではないかと思う。しかし、我々があらかじめ用意をしていない部分からも、子供たちなりの視点で自然の中から“発見”をして「ええ！どこで捕まえたの？」といったように、逆に私たちの方が驚かされる場面もあった。この様な子供が本来持つ大人とは高さの異なる目線に触れられたことは、子供に虫捕りを教えるという目標を達成したことだけでなく、虫捕りをする“虫屋”としての原点を教えられるものであった。またこのことは自然を教材として使用したいと思いつぎるが故に、せっかくの自然を非自然的な場にしてしまったのではないかという反省につながった。

観察会全てを振り返ると、つくバグを運営する上での不備や、当日行き届かなかった点など、挙げ出せばきりが無いほど改善点は見つかる。しかし観察が終わった後の子供たちの顔つきや、スタッフの顔を見ると、悪かったところを引き算しても満点に近い目標への到達度が得られたのではないかと思っている。

今後の課題

7/25 虹の広場にて子ども達にワークショップを行った。

参加者：子ども 14人 大人：5人

生じた問題：

1. 当日、急な思いつきによる提案で荷物の運び方が変わった事で荷物の行き違いが生じ、それによる受付の準備の遅れ。
2. 受付が遅れたことによる保護者への対応に不備が生じた。
3. 当日とても暑かった事。幸いにも熱中症患者はでなかったが、暑く体力が奪われたスタッフ、参加者が多かった。
4. 安全上の問題から参加を断った幼稚園児を保護者が強固突破で参加させようとしたこと。（断る事はできたが、幼稚園児が泣いてしまった。）

生じた困難：

1. グループに分かれて虹の広場でオリエンテーリングを行ったが、あらかじめ仕掛けたトラップに来ている虫を子どもが欲しがるとなだめる事。(一つのグループが虫をすべてとってしまうと残りのグループが虫を見ることができない。)

今後の課題：

1. プロジェクト全体のシステム化の強化。
2. スタッフの教育。
3. 当日スタッフと常スタッフとの交流。

まず前提として、T-ACTにおいて多くの課題は半年程度の短期の企画の様であるが、現在の見通しとしてつくバグは今後も長期にわたり、活動を続けていく予定である。そのうえで今後活動をしていくにあたって検討や改善をしていかなければならないと思われる点を3点あげる。

まず前項でも示したように、自然観察を行っていく上で、観察の為の準備を綿密に行い、昆虫採集を“体験”させることは、必ずしもわれわれの目的としているところではないということに実際に子供と観察を行う中で気がついた。そこで子供に自然の中から自分で発見をさせることと、我々が準備をして発見を促すこと、これらにおいてバランスのとれた点を模索することが第一の課題である。

第二に活動資金、活動内容を今後どうするかという課題である。今回の活動において、網や虫かごなどの観察に必要な道具を買う資金については、社会貢献プロジェクトからの予算で購入した。また印刷物についてはT-ACTフォーラムの印刷機を使わせていただいた。観察会に用い、そのまま持ち帰っていただく道具や、保険料については参加費を頂いた。参加費の値上げ、もしくは観察会の内容縮小も考えつつ活動の内容を検討する必要がある。

第三がサークル活動との差別化である。T-ACTが主に支援をしている短期間の活動でない我々は、サークルではないのか。一体なんなのか。どうでもよい投げかけであるようで、オーガナイザそしてパーティシパントのモチベーションに大きく関わってくる事柄であると考えている。短期の活動に主眼を置いていないが故の課題であり、今後団体の立ち位置について考える余地がある。

経験者からのメッセージ

1. 誰に対して企画を行うのかをしっかりと決める(対象年齢など)。
2. 面倒なシステムではなく、単純なシステムにする事。(面倒や複雑なシステムはスタッフに負担がかかる。)
3. 急な変更は許さない。(誰が言おうと当日(企画日など)の流れは決して変えてはいけない。)

T-ACTでは本当に貴重な体験をさせていただきました。ただ振り返ってみると、自分で言い出した事にも関わらず、嫌で嫌でたまらなく逃げ出したい時もありました。ただ今となってみれば逃げ出さなくて本当に良かったと思います。いやあ、T-ACTに出会えて本当に良かった。自分の活動が非常に偏りのある活動なだけに、大して参考にはならないかと思いますが、活動を成功させるための5カ条を披露したいと思います。一般化させるように努めます。

その一、 つらい時は手を抜く、そのかわり決してやめない。

その二、 信頼関係を築く。

その三、 みんなの前ではポジティブに。一人になったらネガティブに。(危機管理で役に立ちました笑)

その四、 本業をおろそかにしない！(自分は研究でした)

その五、 本当に鈍感力って大事なんですね。

自分が言えた事ではないのが大半ですが、参考程度にして頂ければ幸いです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

企画の準備期間中にスタッフを集めて観察会を行った。

はじめは昆虫の事を知らないスタッフも企画当日には周りにはいる虫を自主的に調べたり、虫についてとても詳しくなっていた。

また企画後に行ったりリーダー参加者へのアンケート生物と関わりのない学類の学生も皆虫についての知識は深まり、自身で昆虫採集をしてみたいと答えていた。スタッフ全体が昆虫を通じて自然への興味が広がった。

観察会の当日の参加のみで変化があったのは、観察会のあとにパーティシパントとして参加してくれた方々が「もっと虫の名前を覚えておけばよかった。」という会話をするようになり、多少でも虫に目がいくようになったことではないかと考える。ただ思うにこれは極めて一時的なもので、パーティシパントにも何らかの効果的な変化を求めるのであれば、当日参加の人の為のミーティングや勉強会などを行う必要があるのではないかと思う。

T-ACT に関する感想

弁護士と相談することができたり、学生だけでは解決できない問題もスムーズに解決できたことには大変感謝しています。また、印刷費がかからなかったことに対しても大変資金面での余裕ができました。ラミネートを利用したオリエンテーリングの問題（問いかけ）は子どもにも保護者にも評判でした。T-ACTのプロジェクト同士の交流会などあればおもしろいと思います。あとはこのweb上の報告書が非常に書きにくくコンテンツも曖昧でこの情報がどのようにT-ACTに貢献しているかどうか疑問にも思えます。

何かやりたいけど何をやればいいのかわからないというように、意欲はあるけれどもそれをぶつける先を持たない学生というのがかなりの数存在するように思う。自分は実際にT-ACTのシステムを使わせて頂いた身として、なんでもいいからとりあえずT-ACTに行ってみなよ、と彼らに教えてあげたい。そんなことを言うとT-ACTフォーラムの皆さんにあんまり忙しくないでくれと言われてしまうかもしれないが、4年になってからT-ACTの存在を初めてしっかりと認識した自分としては、もっと早くに来ていたらと思うことがよくある。それくらいに自分はT-ACTにお世話になった。本当にありがとうございました。

T-ACTの申請書や報告書に関してはもう少し別のフォーマットが用意されていればやりやすいのではないかと。現行のweb上の申請画面は、ホームページにアクセスした人への説明には良いが、申請書類としては不十分な気がするし、報告書の画面も日々の活動報告のメモ書きとしては良いかもしれないが、最終的な報告書としては不十分な気がする。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名

留学生と日本人学生の共同情報誌づくり第3弾（10008A）

T-ACT プランナー

草刈 緑（比較文化学類）

活動内容

①「少数でより深い交流」を目指す

筑波大学には約1500人もの留学生が在籍しており、これまでもイングリッシュカフェやパーティ形式の交流企画はたくさん行われてきました。しかし、私自身これらのイベントに何度も参加してきたものの、毎回決まり切った質問や自己紹介で終わってしまうのが現実でした。

「その原因は何だろう？」

そう考えた時に、ふと思いついたのは「その場に、それ以上会話が発展する要素がなかった」ということです。初対面かつ文化背景も全く違う学生同士がいきなり同じ場所に集まっても、そこに何かの働きかけがない限り、彼らの関係はその場限りのものになってしまうのです。そういった現状に問題提起を抱き、私たちは昨年からの活動をスタートさせました。

そこで私たちがまずやったことは、

- ①共通の関心を持つメンバー同士を集めた少数でのイベントを積み重ねていく
- ②お互いの信頼関係が出来上がってきたところで全体向けの大きなイベントや共同のものづくりを行うというものでした。

（具体的なイベント例）

関東近辺での日帰り旅行・スポーツ企画、お国料理大会、共同の国際情報誌作りなど。

今年度はこれらの活動をさらにパワーアップさせ、学内の交流をより活発化させていきたいと考えています。

②日本語を使った気軽な国際交流を実現する時には英語も使うけど、「英語が出来ないからって留学生と友達になれない」わけじゃない！「日本語・日本文化を学んでいるのに、日本人と出会える機会がない・・・親しい友人が出来ない・・・」という留学生の方をたくさん見てきたからこそ生まれた私たちの活動のモットーです。

（もちろん、メンバーごとに得意な言葉・不得意な言葉があるので

時には英語を含めた複数の言語が混じります。でも、その時は他のメンバーが間に立ってコミュニケーションのお手伝い！Team8にはいろいろな人がいます。困ったらどんどん他の仲間を頼ってください。）

③ものづくり（フリーペーパーの制作やお国料理大会など）を通し、学生同士が単なる「友人」を超え、大切な「仲間」としてより深い関わりを持てるようにする「何かを一緒に作る」という体験を通して見えてくる文化の差、学内で反響を頂けた時の達成感。普通に大学生活を送っているだけではなかなか味わえない楽しさをこの活動を通して皆に知ってもらいたいと考えています。

<p>④学類主催の外国語講座への参加 放課後に行われる比較文化学類主催の「留学生に学ぶ外国語講座」、「日本人学生に学ぶ日本語・日本文化講座」などにも参加する予定です（これは2学期以降本格的に始動）。</p> <p>【最終目標】 留学生と日本人学生がお互いのふるさとを訪問しあえるくらい、深い交流を生み出すこと。</p>	
活動期間	平成22年6月1日～平成22年12月31日
活動計画	平成22年6月～8月 次回の冊子の編集会議、執筆・取材・日本語添削メンバー宅でのお国料理作り
	9月 国際情報誌 Team8 第3号発行・web版 Team8 の制作交流イベント①
	10月～11月 第4号の編集会議、執筆・取材・日本語添削メンバー宅でのお国料理作り
	12月 国際情報誌 Team8 第4号発行・web版 Team8 の制作
備考欄	
T-ACT オーガナイザー	須藤 優花（比較文化学類） 明本 彩美（比較文化学類）
T-ACT パートナー	小屋 一平（国際部留学生交流課）

活動報告

活動成果

・活動内容

6月初旬 メンバー募集、説明会実施、ミーティング

6月中旬

【情報誌関連】情報誌のコンテンツ決定、お部屋訪問取材、

【イベント】韓国料理大会、食事会

7月～8月初旬

【情報誌関連】テンプル大学取材、留学生インタビュー実施、留学レポートなど各種記事の執筆依頼、添削、デザイン会議の実施

【イベント】花火大会、広東料理大会、サミーさんのcostco ツアー

8月中旬～

【情報誌関連】デザイン会議実施。情報誌編集開始。

9月上旬～中旬

【情報誌関連】デザイン終了。校正。

9月下旬

【情報誌関連】印刷会社に依頼。

10月

【情報誌関連】Team8 No.3 秋号完成

【イベント】打ち上げパーティ、BBQ 大会（ゆかりの森）

11月上旬

【イベント】アジアエンパワーメントフォーラム、つくば市民交流会に参加。プレゼンテーション実施

11月下旬 新体制 Team8 スタートに向けた準備

12月上旬 留学生リーダーによる新体制 Team8 始動。定期ミーティング& WEB 版 Team8 スタート。
留学生による連載開始。

【イベント】カラオケ大会。Team8 有志によるランニング部活動開始。

お正月ワークショップ第一弾「学ぶ編」準備開始。

12月中旬～下旬

【イベント】ワークショップ実施。Team8 クリスマスパーティ

1月中旬

【イベント】鍋パーティ他、各種ホームパーティ。

お正月ワークショップ第二弾「実践編」

日中韓のお正月料理作り。スライド発表。レシピ配布。

マレーシア料理作り。

1月下旬

【イベント】Nick さんによる TOEIC 講座

・目標達成度

120%

今期は「国際情報誌作りを通じた深い国際交流」を主軸に掲げ活動してきましたが、冊子の制作が終わってからも、ワークショップや各種プレゼンテーション、WEB 版 Team8 の立ち上げなどを通し、「留学生と日本人学生が協同して新しいものを創り出す」という場面を多く実現することができました。これらを通し、メンバー間に「友人」を越えた「仲間」という意識が強く芽生えたように思います。その結果、今ではメンバー同士で誘い合ってランニングをしたり、引っ越しのお手伝いをしたり、何かあればすぐに仲間の元に駆けつけたり、と Team8 としての活動以外のところでのメンバー同士の関係がぐっと深まりました。「facebook で呼びかける→Nick さんの家でわいわいご飯！」も Team8 の新しい名物となりました。

また、筑波大内に限らず、都内や市内の国際交流支援団体や市民活動家の方々との繋がりもでき、活動のフィールドが大きく広がったように思います。これらは全て仲間たちのおかげ。Team8 の皆には本当に感謝しています。特に、今期から新しく加わってくれた Nick さんと森君にはいくら感謝しても足りないくらい、Team8 に多くのものをもたらしていただきました。二人とはこれからの Team8 のあり方について本音で熱く語り合い、一緒に新しいものをどんどん開拓してきたように思います。

これからも後輩達がさらに Team8 を盛り上げ、仲間同士の絆を深めていってくれることを願っています。

今後の課題

「次期リーダー&コアメンバーの育成。」

これまでのコアメンバーの4年生、短期留学生が数名卒業・帰国してしまうこともあり、それまでに Team8 のミッション、活動理念をメンバー同士で再確認する必要があります。その上で、これから新しくどんな活動にチャレンジしていきたいかを話し合い、それを実現するための次期リーダー、コアメンバー層を育成することが今後の課題です。

また、これからの活動目標として、他団体とのコラボレーション企画の開催（現在、いくつか企画中）と、活動フィールドの拡大がある。現在のつくばの環境を活かし、Team8 内、大学内に限らず、様々な分野で活躍する市民や学生の皆さんと協力し、幅広い活動をしていきたいと考えています。

経験者からのメッセージ

人が環境をつくり、環境が人をつくれます。

環境のせいにするのではなく、人のせいにするのではなく

「ないものは自分で創る」そうすることで何かが変わるかもしれない。

もっと面白い大学になるかもしれない。

踏み出す勇気を持ってください。

みなさんの大学生活がT-ACTでより充実したものになるよう祈っています。

運営者側から見たパーティシパントの変化

リーダーによる提案・伝達→→パーティシパント

という構図から

運営者（プランナー、新プランナー、留学生を含むコアメンバー）

⇔新メンバーを中心としたパーティシパント

相互による積極的な意見交換、後輩による新企画の提案がたくさん行われるようになりました。

また、これまでの2年近くの間、メンバー間の外国語に対する苦手意識の克服（留学生であれば日本語）が課題であったのですが、後期に入り、メンバーの所属や国籍が多様になったこともあり（それも3、4カ国語を操るメンバーが増えたこともあり！）、言語の壁が薄れてきたように感じます。会話の中に複数の言語が入り交じり、わからない部分は様々なメンバーが間に入ってサポートする、或いは出来るだけ自分でも話す努力をするというのが皆自然に出来るようになり、今になってとても理想的なコミュニケーション環境が整ってきたように思います。

T-ACT に関する感想

樫村先生と半田さんにはこれまでたいへんお世話になりました。

私が行き詰まってしまった際も、常に的確かつ、あたたかいアドバイスをくださったおかげで、どんな時も再び前を向くことができました。

ここまで Team8 が成長できたのもお二方のおかげだと心から思っています。

これから T-ACT でぜひ実現していただきたいと考えているものは三点あります。

一つ目は「留学生向けの広報活動」です。これまでの広報スタイルに加え、留学生センターとの連携をとった留学生向けの広報活動も取り入れていただければ、T-ACT がさらに盛り上がっていくのではないかと思います。

各種講演会やワークショップなど、全学生を対象とした素晴らしい企画が次々と行われていながらも、それらの情報が留学生まで届いていない、あるいは、わかりやすく伝わっていない現状があります。

「研究分野でのグローバル化」はもちろんのこと、あらゆる分野において「留学生もみんな一緒になってこの大学を盛り上げていこう！」という風土が筑波大学にも根付いていけば、この大学はさらにいい大学になっていくのではないかと考えます。

二つ目は「OB/OGの方との共同プロジェクトの実現」です。

私立大学では学生が卒業してからも先輩・後輩のタテのつながりがある、といわれている一方で、筑波大学ではまだまだそのつながりが弱いように思います。自分と同じような関心を持った先輩がどのような道を歩んでいるのか、どういったライビジョンを持っているのかをお聴きする機会を設けたり、先輩方の幅広い人脈や経験をお借りしたプロジェクトができたら面白いと思います（具体的にはまだ思いつきませんが・・・）

三つ目は森君が前に話していたアイデアなのですが、学内にバイト募集のような人材募集の掲示板を新しく作るのはいかがでしょうか。それも「〇〇関連」などいくつかのカテゴリーを作り、その中から自分の関心のあるものを探せるように工夫した全校生向けの掲示板があればとても便利だと思います。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 GM Flower Show (10009A)

T-ACT プランナー 緒方 辰悟 (生物学類)

活動内容

近年、世界では遺伝子組換え技術 (GM) を中心にした植物バイオテクノロジーが大きな成果を上げ、未来に置いて欠かすことのできない技術として研究がすすめられています。しかし、日本の一般社会においては GM に対しての認知が十分進んでおらず、話し合いさえままならない状態です。この企画は、遺伝子組換え作物 (GMO) を実際に見てもらおうことで、GM に対して興味を持ってもらうことを目的としたものです。

活動期間 平成 22 年 6 月 21 日～平成 22 年 12 月 21 日

活動計画

平成 22 年 6 月～7 月	メンバーを集め、計画を練る
8 月～11 月	製品開発、及びその量産
12 月	展示、活動報告書を書いて T-ACT に提出

備考欄

T-ACT オーガナイザー 大澤 聡志 (第二学群生物学類)

T-ACT パートナー 小野 道之 (生命環境科学研究科)

活動報告

活動成果

・活動目標

研究室で作成している遺伝子組換えアサガオを樹脂包埋して学内に展示する。

・実際の内容

当初は資金をどこかしらから援助してもらおう前提で活動を進めていたが、期待していた資金援助が全て採択されず、外部の工場へ委託することができなくなった。仕方がなく、自分の手で作ることとなった (材料は研究室の先生が提供してくださった) が、展示をするにしてもどうやって盗難防止などの管理をするかという点で、展示は難しいということとなり、制作はその目処が立つまで中止となった。

今後の課題

- ・大きく社会問題視されている事柄、特に「団体として反対勢力が存在する事柄」に関しては、例え限定された区間内 (学内やインターネット上など) であっても細心の注意を払って活動すること。
- また、そのような事態が起こるかどうかを事前によく考えること。
- ・物品管理という点で、安全を保障できるかどうかを事前に確認する。その物品が盗難される、もし

くは壊される等の事件が起きた場合、予期せぬ事態が起き得るケースがある。例えば今回では、遺伝子組換え花きということで、「外部に展示する」という点ではクリアしたのだが、「盗まれることで個人のものとして所有される」というケースが考えられ、遺伝子組換え作物の管理不手際ということでクレームがつくかもしれない。

経験者からのメッセージ

- ・一人でもおこなえる活動（少なくとも自分ではそう思っているもの）ならば、始めから一人で行えるかどうかを活動前にシミュレーションすること。特に、他人や他の団体との交渉や援助など「不確実なところ」の楽観的な予測はやめる。
- ・多人数で行う活動の際には、あらかじめ活動可能な最低人数を確保してから始めること。自分の興味が他の人（たとえ自分と同じ分野で勉強や活動している人）にも当てはまるとは思わないこと。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 鉄板「自己PR」をつくろう～本田直之式・自分プロデュース術～（10011A）

T-ACT プランナー 浜名 真幸（国際総合学類）

活動内容

【問題意識】

就職活動だけでなく人生のあらゆる場面で「自己PR」は求められます。自分の強み弱みを伝える、簡単なようで誰もが苦勞することです。早い段階で自分のことを知り、成長の機会である大学生活を無駄にせず、強みを活かすために充実させることができたら、どんなにいいことかと考えていました。

【企画立案の経緯】

以前に、本田氏のセミナーに参加する機会に恵まれました。そこで就職活動生だけでなく、多くの人が「陥る罠」についての話を聞き、また、自分を知り、目標をたて、習慣を変えていく大切さを学びました。筑波大生にも、本田氏の考え方を知ってもらい、活かしてもらいたいと思いました。そこで、講演を依頼し、この企画を立案しました。

【最終的な目標】

相手に興味を持ってもらえる「自己紹介」を創ることです。そのために、自分を知り、「思考の癖」を直し、自分に合った「キャリア」を描いてもらいます。そして、それに向かって大学生活を送る、または就職活動に活かしてもらいたいです。

◆最高の人脈とは、志の高い仲間のことである◆

自己PRの背後には、パーソナルブランディング・マーケティング、レバレッジシンキング、人脈術など様々な概念があります。

今回の企画を志の高い「仲間」と実現することで、本田氏の考え方を多くの人に知ってもらい、参加者・企画者、双方が自分の価値を磨き上げられるようにしていきたいです。

仲間の輪を広げ、各々で切磋琢磨できたらいいなと思っています。

より多くの協力、参加をお待ちしています！

活動期間 平成22年6月1日～平成22年9月30日

活動計画	平成22年 5月下旬	企画申請
	6月～8月	メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
	9月	広報
	9月22日	18:30～21:00 セミナー開催
	9月末	活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄	会場：3 A 204 予定 講演料、交通費の負担なし。参加費：無料。学生限定。
T-ACT オーガナイザー	系長 智子（人間総合科学研究科） 亀岡 典哲（数理物質科学研究科） 森 裕信（教育学類） 赤川 朗（数理物質科学研究科） 重原 美緒（教育学類）
T-ACT パートナー	道谷 里英（キャリア支援室）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5月1日 講師から開催形式で合意を得る
～ 企画申請
- 5月17日 パートナーに企画概要を相談
- 6月23日 mtg: 役割分担
- 7月1日 mtg: 広報進捗
～ フォームマン・チラシ・HP・広告 ppt 作成
- 7月18日 講師と会い、本格的な広報は9月からと伝える
- 7月29日 mtg: 広報進捗
～ ポスター作成・掲示、教室確報
- 8月31日 mtg: 広報進捗、当日イメージ共有
- 9月3日 ビラ配り @2・3 エリア
- 9月6日 ビラ配り @1 エリア
mtg: タスク確認
～ 広報 onML
- 9月8日 就職ガイダンス後にビラ配り
- * 100 人到達**
- 9月10日 ビラ配り @ 体芸エリア
- 9月13日 ビラ配り @2・3 エリア
mtg: 当日までの詳細を確認
- 9月14日 講師と会い当日の詳細を共有
- 9月17日 パートナーと会い最終確認
ビラ配り @1 エリア
～ ustream テスト、twitter 過告知、看板設置願い提出
- 9月22日 授業後に宣伝×2
ビラ配り @2・3 エリア
mtg: タイムテーブルを最終確認
セミナー開催
- 9月26日 フォローアップイベント
～ 返却
- 10月4日 mtg: 仕上げ作業

・目標達成度

集客の面では、135%。

(目標は 200 名、参加者 220 名・最大同時視聴数 50 名)

就活・キャリア支援の面では、アンケートによると、タグが好評で期待以上の反応であった。また、異色なライフスタイル・プレゼンを示したことで、価値観に大きな影響をあたえられたのではないかと。一方、仕事術については、本の紹介に止まってしまい十分ではなかった。

・得られた成果

プランナーとして、自分の至らなさを痛感するとともに、得るものがとても多かった。“矢の周りに的を描く”重要性。段取りの必要性。メンバー一同、感じ取れたと思う。そして、大規模な講演会・ネット配信の一つの見本を創れたことは大きな成果である。一方で、T-ACT 独特のコミュニティを活用できなかったことが悔やまれる。

今後の課題

パラダイムシフトは、連続でショックを与えて初めて成功する。その意味でも「再現性」を確かめるべく、社会で活躍する人をまた招待して、学生にショックを与え、巻き込んでいきたい。特に、段取り / ゴールイメージの共有 / 絞込み / リスクヘッジ / 負担の分散 / スピード・着手 / 巻き込みをしっかりとやっていきたい。

経験者からのメッセージ

自分の考えを人に伝えることは本当に大事です！

参加→運営→企画、それぞれのステージで得るものは違いますが、プランナーが一番菌ごたえがあります。

やってみたら案外できる、思い通りになる楽しみ。突破口を切り開く気持ちよさ。

一歩前に進んだ人だけが、それがたとえ、1mm だけであっても、違う世界を感じることができます。

騙されたと思って、T-ACT にいってみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

肩の力が抜けたと思います。少数は、動き出したと思います。もう少しで、大勢の視界が晴れるところまで来ていると思います。

T-ACT に関する感想

大学からの協体制、特に生活課との連携は素晴らしく、何事も親切に対応してもらえました。が、ノウハウが集積されておらず、「～してみても」が多かったように感じます。マニュアル作成も考えた方がいいかと思っています。また、パートナー斡旋も願っています。企画ページは便利な機能がついていますが、いまひとつ使いにくいと感じます。

T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 茨城県の名産品『納豆』を作ってみよう！（10012A）

T-ACT プランナー 鈴木 拓央（システム情報工学研究科）

活動内容

問題意識：茨城県の知名度が全国的（世界的）にかなり低い。
 解決方法：他県（外国）出身の方々に『納豆』を作ってもらおう。
 最終目標：感想が人伝いで広がり、茨城県の知名度が向上する。

活動期間 平成 22 年 6 月 11 日～平成 22 年 9 月 30 日

活動計画	平成 22 年 6 月	T-ACT パーティシパントの募集開始 （最低必要人数の確保）
	7 月	活動内容の詳細を決定 （スポンサーの獲得→スポンサーとの打ち合わせ）
	8 月	タカノフーズの納豆工場&納豆博物館を見学 （移動手段の確保）
	9 月	納豆の作成&試食 （調理指導者の確保）
	9 月末	活動報告書の提出 （スポンサーにも提出）

備考欄

納豆の材料費は T-ACT パーティシパントに請求する予定である。見学の移動には大学所有のバスを利用する予定である。納豆の調理には
 宿舍の共用棟を利用する予定である。また、茨城県の観光関連部署や
 納豆関連会社にスポンサーをお願いすることで、材料費や交通費の獲
 得、および、料理指導者の確保を目指す。

T-ACT オーガナイザー 加藤 義隆（システム情報工学研究科）

T-ACT パートナー 蓮見 孝（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 5 月 31 日 蓮見先生がパートナーとして参加
- 6 月 1 日 納豆アクションの申請
- 6 月 11 日 納豆アクションの承認
- 6 月 18 日 加藤君がオーガナイザーとして参加

6月21日	掲示板用ポスターの作成
6月22日	フォーラムとミーティング ポスターを掲示（第1弾）
6月23日	蓮見先生とミーティング
6月29日	大学バスの予約
6月29日	電子掲示板用スライドを作成 & 公開
6月30日	春日公民館の予約
7月16日	だるま食品株式会社とミーティング
8月1日	スケジュールを作成 スケジュールを車庫へ連絡
8月4日	茨城県工業技術センターへ設備利用願を提出
8月11日	ポスターを掲示（第2弾）
8月12日	茨城県工業技術センターとミーティング
8月17日	春日公民館の予約変更（23日をキャンセル）
8月22日	説明用配布資料の作成
8月23日	だるま食品の納豆工場見学 センターにて納豆を作成
8月25日	だるま食品と工業技術センターへのお返しを購入 作成した納豆を受け取り 公民館で納豆を試食
8月29日	活動報告書を作成

・目標達成度

目標達成度は80%くらいだと思います。

良かった点

- ★アクションを問題なく実施できた。
- ★美味しい納豆を作成できた。
- ★アクション中、パーティシパントに笑顔が溢れていた。

悪かった点

- ★オーガナイザーの加藤君が参加できなかった。
- ★アクションの告知が夏休みに入ってからになってしまった。
→パーティシパントが20名に達しなかった。
- ★納豆を食べれない他国出身のパーティシパントがいた。
→納豆試食会を楽しめなかった。

・得られた成果

他県や他国出身のパーティシパントに茨城県の名産品を知ってもらえた。

他県や他国出身のパーティシパントに水戸市を覚えてもらえた。

納豆の様々な食べ方を知ってもらえた。

今後の課題

★告知について

電子掲示板や掲示板を利用することで元々 T-ACT に関心のある人に対してイベントを告知することができました。

しかし、T-ACT に関心のない人は掲示板を見ないので、より多くの学生に告知できる仕組みが必要だと感じました。

例えば、入学時に『T-ACT 関連のメールを受信したくない方は〇〇してください』というようにし、できる限り多くの学生に告知メールを一斉送信できるシステムを構築することを提案させていただきます。

★交通費について

納豆アクションは水戸市にあるだるま食品株式会社や茨城県工業技術センターと打ち合わせをする必要があったため、結果としてつくば市・水戸市間を3往復しました。

高速道路代とガソリン代は合計で6000円にもなり、学部生が同様のアクションを企画・運営することは非常に難しいと考えるます。

やはり、必要に応じて金銭面も支援するべきだと思います。予算案を作成することも勉強になると思いますし…。

★大学バスについて

納豆アクションでは大学所有のバスを移動手段として借用しましたが、平日のみしか利用できなかったため夏休み中に実施するしかありませんでした。

土日でも利用できるようになるとアクションの幅が広がると思います。

経験者からのメッセージ

T-ACT は他の大学にない素晴らしいシステムです。

T-ACT に少しでも興味を持ったのなら、オリジナリティのあるアクションを起こしてみましよう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

納豆作成のために器具を準備するときは自主的に手伝うパーティシパントは少なかったのですが、器具の片付けるときには皆さん進んで手伝うようになりました。

→人見知りなパーティシパントも共同を作業を通して心を開いたように感じました。

T-ACT に関する感想

榎村先生の予定を共有できればもっと効率的に活動できたと思います。

あと、T-ACT ののぼりを学生プラザの前に設置したら、もっと多くの学生にT-ACTを知ってもらえるかなと思いました。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 そうだ！！スリラーを踊ろう@雙峰祭（10013A）

T-ACT プランナー 鮎川 亮太（社会工学類）

活動内容

・雙峰祭には目玉と思えるような企画がない！！だったら我々で作ってしまおう！！というのが企画立案の動機です。100人以上でスリラーを踊れば絶対に盛り上がるはず。我々が雙峰祭のトップをとろうじゃないか！！

活動期間 平成22年6月15日～平成22年10月12日

活動計画	平成22年 6月	人員募集（100人以上）
	7月～ 学園祭当日	スリラー練習
	学園祭終了後	活動報告書の提出

備考欄

T-ACT オーガナイザー

山下 奈菜子（社会学類）
 安達 ひかる（社会学類）
 精松 幸彦（知識・情報図書館学類）
 松本 紘一郎（教育学類）
 永田 洋（国際総合学類）
 町田 健登（国際総合学類）

T-ACT パートナー 寺山 由美（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

6月30日	T-ACT 企画として承認。
7月4日	第1回練習実施。
7月7日	第2回練習実施。UNITED ステージでの披露時間決定。
7月17日	第3回練習実施。
7月18日	第4回練習実施。
7月19日	第5回練習実施。
7月21日	第6回練習実施。
7月23日	第7回練習実施。
7月26日	第8回練習実施。
8月8日	第9回練習実施。
8月26日	第10回練習実施。

- 8月27日 第11回練習実施。
- 9月1日 学内電子掲示板での宣伝開始。
- 9月3日 この時点でのメーリス登録者39名。
- 9月9日 定期練習開始。(毎週月曜放課後、水曜昼休み、金曜昼休みにそれぞれ実施。)
- 9月8日 学内でのポスター掲示開始。
- 9月16日 この時点でメーリス登録者数69名。
- 10月3日 参加者全体での本番情報シェア。
- 10月4日 YouTubeに本番の並び方説明動画をアップ。
- 10月8日 UNITEDステージでリハーサル。
- 10月9日 雨の中、本番実施。コンサル様の撮影には感謝。

本番終了後は参加者のみんな達成感を共有できた。普段出来ることではないので体中の細胞が活性化し、アドレナリン全開だったのを覚えている。運営等に問題は見られたが結果から見ればとても成功したと思う。

今後の課題

- ・雨天時や、そのほかの緊急事態時にどのように行動するか考えていなかったために、迅速に対応できなかった。
- ・名簿の作成をメーリスなどの電子機器に頼りすぎていたために補足率が悪かった。もっと出席簿を作るなどのアナログの対応が必要だと思った。
- ・参加者が多いため情報の共有が困難であったが、あまり有効な策をしくことが出来なかった。
- ・参加者に対する音源の配布が完璧でなかった。全員が自主練習できる環境を作ることが大切。
- ・せっかくダンス専門の先生にパートナーを頼んだのにあまり直接ダンスの指導を受けることが出来なかった(もう少しこちらから打診があれば何とかかなったかもしれない・・・)
- ・まだまだ学園祭に深い爪あとを残すにはインパクトが足らなかった気がする。改良の余地あり。

経験者からのメッセージ

T-ACTの可能性は無限大です。日ごろ不満に思っていること、どうしてもやってみたいことなどがあれば一度T-ACTフォーラムを尋ねてみてください。手詰まりになっていた状況、霧のかかっていた視界が一気に改善の方向に進むはずですよ。T-ACTでは企画運営上の問題解決の手段を提案してくれるだけではなく、企画に挑戦する覚悟や不満の捌け口などにもなってくれ、メンタル面でも私をアシストしてくれました。とりあえず困ったこと、疑問に思うことがあれば、どんな些細なこと、漠然としたことでもよいのでT-ACTコンサルタントや事務さんに話してみてください。それが新たな第一歩につながるはずですよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

特に自分と同じ1年生が変わってくれたと思う。オーガナイザーの1年生たちは、自分たちの仕事に十分すぎるくらいの責任感を持つようになってくれ、パーティシパントの1年生たちは、この企画にかかわることで大勢で何かをやることのすばらしさを学んでくれたと思います。

なにより今回は私が一番変わったと思います。先輩がいなければ何も出来ないようなヨチヨチ歩きだった私も、企画が形になってゆくころにはすっかり独り立ちできるようになりました。今後、なにか活動してゆく上でかなりの自信につながったと思います。本当に感謝感謝でございます。

T-ACTに関する感想

欲を言うのならばもう少し有志の学生、教職員の方々が一目でわかるポケモン図鑑のようなものを充実してほしい。T-ACTのサイトにもデータベースはあるが自己申告制のためあまり利湯者のほしい情報を得られるようなものにするのは難しいと思う。

ひとつの案ではあるが、今後、T-ACTのプランナーの人の詳細な情報を第三者がざっくりとでいいので、取材なしリサーチできる仕組みがあると、そのデータベースはとても便利だと思う。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 ロボットの大会で工作教室～子供たちに科学技術を伝えよう！～(10014A)

T-ACT プランナー 改田 鈴枝 (化学類)

活動内容

・マイクロマウス全国大会では、この競技大会を通して、ロボット技術に興味を持ってもらうために子供向けの工作を毎年開いています。この大会は、つくばチャレンジというもう一つのロボット大会と共に、ここ数年はつくばで行われています。これは、科学技術の発展に寄与するだけでなく、科学技術者及び科学技術に携わっている方々と、一般住民の方々との間を埋める活動も行っています。しかし、企画の目的とは裏腹に、なかなか周知することができず、一般観覧者や子供たちは集まらず、大会の効果が上がりません。

今回、私たちがこの企画に参加し、活動を支援することは、社会貢献として、学生身分、自分の専攻に関係なく広く科学技術を広げる活動ができることや私たち自身のキャリア形成のための活動となると考えています。

活動期間

平成 22 年 7 月 12 日～平成 22 年 12 月 05 日

活動計画

11 月 20、21 日にマイクロマウス 2010 というロボットの全国大会がつくばで開催されます。そこで子供向けの工作教室を行います。

マイクロマウスでは小さな自立型ロボットが自分の力だけで課題をこなし、その速さや確実さを競う大会です。迷路を探索してゴールを探したり、くねった白線を辿ったり、普段目にすることはない、ロボットの挑戦を見ることができます。歴史は意外と古く、ルールを改正したり、競技種類を増やしながら、30 年以上続いている大会です。

この大会は、ニューテクノロジー財団というところが運営しています。そこが競技に関してを取り仕切っているのです、私たちも協力しながら活動していきます。

子供向けの工作教室メインですが、それ以外にも、この大会の中で出場関係者以外の人に向けてこの大会をアピールしていく活動を行います。具体的には、学校や関係施設への宣伝や大会で子供向けの案内などです。企画することから始まるので、思いついたことがあれば、どんどん内容に加えていきます。

工作の内容は、ロボットです。メインに工作を指導するのは先生が来てくれます。また、当日前に試作会も行っているので、特に関連する知識がなくて大丈夫です。

テレビで先端の科学技術を見かけることは多いですが、本物を実際に目にしていない人も多くいると思います。つくばで行われるこの大会で、子供たちが科学技術に興味を持つお手伝いをしませんか。

パーティシパントの人には、主に当日の工作教室などのスタッフとして活動してもらいます。

オーガナイザーの人には、宣伝や企画内容から関わってほしいです。

活動計画	平成 22 年 7 月	大会運営側と話し合いながら、宣伝方法や企画内容の決定
	8 月	宣伝活動開始
	9, 10 月	当日の準備や引き続き宣伝（まだ運営側と相談中ですが、宣伝のための小さな工作教室を実施するかもしれません。）
	11 月 20, 21 日	大会当日
	12 月	活動の振り返り
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	木下 奏（知識情報図書館学類）	
T-ACT パートナー	久保田 優（学生部就職課）	

活動報告

活動成果

・活動内容

7 月 1 日	ニューテクノロジー財団の方と打ち合わせ
7 月 2 日	ミーティング
9 月	チラシ作製
9 月 22 日	広報についてつくば市産業振興課に相談
9 月 27 日	ミーティング
10 月 18 日	ミーティング
11 月 8 日	当日のミーティング
11 月 20 日	マイクロマウス運営の手伝い
11 月 21 日	マイクロマウス工作教室運営
12 月	アンケート集計
12 月 13 日	工作教室の反省会

・目標達成度

目標は、ほぼ達成されたと考える。

私たちの目標は、この工作教室を通して、子供たちに科学技術に興味を持ってもらうことであった。教室では、実際に子供たちが手を動かしてロボットを作成することでロボット技術に興味を持ってもらうことができた。さらに、工作で使用した部品（トランジスタなど）について、講師から説明を入れながら行ったことによって、さらに身近な場所での技術についても関心を高めることができたろう。

また、工作会場の隣では、マイクロマウス 2010 の決勝が開催されていて、工作教室に参加した子供たちは、その観戦も楽しんだ。工作したロボットとは比べ物にならない、ダイナミックかつ安定した動きに、ロボット工作の奥深さを実感したことだろう。

・得られた成果

今回の活動を通して、私は多くの人と関わって成り立つ仕事を実感することができた。

工作教室当日までの、大会の関係者や工作教室の講師とのやりとりでは、自分ができる仕事と相手

にやってもらいたい仕事をしっかりと説明する大切さを学んだ。また、工作教室当日では、代表者が全体を把握することと手伝ってくれる方への的確な指示の重要性を学んだ。この工作教室は、来年も開催されるため、改善すべきところを考え資料を残し、仕事を引き継ぐ予定だ。

今後の課題

人数が少なかったのだから、ミーティングを密に行うこともできたはずだが、あまり一緒に活動方針を練り上げることができなかった。そのため、独りよがりな活動になってしまったと感じる。

具体的な問題点としては、工作教室がマイクロマウス 2010 の中で開催されるため、その担当の方との打ち合わせが多くなったことにある。そのメールのやり取りを全て cc で送るなどしていれば、もう少し情報を共有できただろう。

準備段階では、活動状況の説明とそれに対する意見をもらって改善するといった形の協力が多かった。しかし、工作教室の当日は、私の手が届かないところを積極的に補助してもらい、お互いに良い形で協力できただろう。

経験者からのメッセージ

T-ACT は、何かしたいという気持ちを応援してくれ、実際のイベントにつなげるサポートをしてくれます。

私は、イベントの醍醐味は、様々な人との新しい関わりが生まれることにあると思います。その関わりは良いものばかりではありませんが、どれも自分を成長させてくれます。そして、頭の中で考えるだけでなく、実際に行動したからこそ得られるものです。

これから T-ACT を始める人は、イベントを成功させる事とともに、人との新しい関わりにも大きな期待を持ってください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

(オーガナイザーについて)

残念ながら、この企画を通しての変化を感じることができるほど一緒に活動することはできなかった。

しかし、打ち合わせでは話と同調するだけでなく、積極的に意見を交わすことができた。ここから、議論によって生まれる充実感や情報共有の大切さを感じてもらえただろう。

T-ACT に関する感想

T-ACT で活動したおかげで、学生生活課からの用具の貸し出しをスムーズに行うことができて良かった。

最初から一緒に活動すると決めていた 2 人で最後まで活動することになった事が、T-ACT のイベントとしては失敗であったと感じる。しかし、活動した内容的（学外の方と多くかかわる、工作の当日は競技会のスタッフも手伝ってくれる）には、2 人だけでも問題がなかった。せっかく T-ACT で活動することにしたのだから、別な宣伝イベントの開催など、人数を集めてそれぞれの特技を生かせるような活動にできれば良かったと反省している。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 学び場さくら塾 2nd Season (10016A)

T-ACT プランナー 金岡 孝浩 (人文学類)

活動内容

学び場さくら塾は、平成 22 年 5 月にできたばかりの無料の学習塾です。

さくら塾は、大学、地域住民、保護者の方々の協力の下に成り立っています。様々な人びと、組織と協働し、地域に根ざした教育組織にしたいと考えています。

今後とも全学に活動の輪を広げていきたいと思い、第二期を申請させていただきました。

5 月から 8 月までの第一期は、地域住民、児童生徒の保護者、T-ACT の協力により、無事活動を続けることができました。さくら塾は、単なる学習指導にとどまらず、大学と地域をつなぐさまざまな取り組みに積極的です。第一期の 7 月は留学生と芸術専門学群の学生を招いて交流会を行いました。8 月は大学生と中学生の TALK SESSION も行いました。今後も、継続的にさまざまなイベント作りをしていきたいと思っています。

さくら塾では、学生講師が週二日（火曜、日曜）、桜 3 丁目 21 にある県営桜アパートの集会所に出向き、無料で小中学生に勉強を教えています。

火曜日（19：00～21：00）は中学生に英語と数学、日曜日（10：00～11：30）は小学生に百マス計算、漢字、算数（その他、地図の勉強、工作、など特色のある教科）を指導しています。一般的な学習塾とは異なり、生徒との距離が密接なところが特徴です。教育に熱い方、地域活性化に興味がある方、ボランティアに燃えたい方は、子どもたちを巻き込んだイベント運営に興味のある方はのふるってご参加下さい。現在、学生講師および運営メンバーを募集しています。お問い合わせは、info@manabiba-sakura.org まで。

また内容についての詳細は、WEB ページをご覧ください。<http://www.manabiba-sakura.org/>

活動期間 平成 22 年 9 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日

活動計画	平成 22 年 9 月	さくら塾の運営を強固にする
	10 月	教育の質を高める
	11 月	T-ACT からの学生団体にするか否かの話し合い 社会貢献プロジェクトに応募
	12 月	集会所でイベント メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄 URL <http://www.manabiba-sakura.org/>

T-ACT オーガナイザー	挟間 龍亮（応用理工学類） 中田 智洋（心理学類） 松本 紘一郎（教育学類） 高橋 美保（人文学類）
T-ACT パートナー	田中 マリア（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

■活動履歴

- 08/20 さくら塾代表権が現代表へ委任される。
- 08/28 合同会社マイアース・プロジェクトの協力を得て、環境教育カードゲーム「マイアース」の授業への正式導入が決定する。
- 09/01 第二期の活動がスタートする。パートナーとして田中マリア先生のご協力を得る。
- 09/02 合同会社マイアース・プロジェクトさんより、マイアースが送られてくる。
- 09/07 第一回中学生の部を実施。学生講師三人という異常事態になるも、なんとか乗り切る。授業体制自体の変革、もしくはコンスタントに参加できる学生講師を募集する事が必要であることがわかった。
- 09/08 オーガナイザー挟間と電話会議を行い、新体制の構想を立てた。中3と中1・2を分け、それぞれ別の時間に英語と数学を行う体制。利点は、英語を教えたい人でも後半に來れ、数学を教えたい人でも前半に來れるために、教科の選択幅が広がる事。
- 09/15 さくら塾公式HPの「はじめに」を執筆完了
- 09/16 学生講師登録者数が10人になる。
- 10/01 平成22年第二期社会貢献プロジェクトに採択される。
- 10/18 さくら塾を支援していただいている地域住民の方々と会合を行う。保護者と学生講師のつながりが薄いことをご指摘いただく。
- 11/02 中等部にて保護者への連絡帳を作成。指導した講師と保護者の間のコミュニケーションを形成することが目的。
- 11/07 第一回保護者MTGを行う。現状の報告と金曜日の開講について。金曜日は中学生のみで開講することを決定。
- 12/03 第一回金曜日開講。
- 01/30 中学3年生向けの自習スペースを開講。

■目標達成度

さくら塾の目標は「地域と大学をつなげる」ことです。しかしながら、二期に関しては運営者の力及ばず、一期のようなトークセッションや講演会などを実施することはできませんでした。

しかしながら、さくら塾の教育内容を充実させることに関しては、前進したように感じます。

教育内容が充実した明確な根拠は、教育という分野の性質上直ぐに示すことはできませんが、金曜日の新規開講、自習室の開講、日曜日におけるシステムの改善など、教育内容の充実・改善に対して努力は惜しみませんでした。

諸改善内容については、保護者・構成員からは良い評価をいただいています。しかしながら、子どもたちの成長に本当にプラスになったのかどうかは、まだ明らかにはなっていません。

■得られた成果

保護者さんからは「机に向かうようになった」や「勉強する習慣がついた」等の感謝の言葉をいただいています。

子どもたちの成績向上に関与できたかどうかは、3学期の通知表が帰ってくるまで分かりません。

今後の課題

さくら塾の基本方針・教育内容はほとんど固まりました。次段階として、規模拡大を目指しています。規模拡大とは、具体的には①生徒数の増大②講師数の増大の二つを指し、桜地域に住んでいる子供たちなら誰でも来れるような、筑波大学生であればだれでも来れるような、そんな空間でありたいと考えています。

その目標を達成するための課題として①場所的問題②意欲的問題が挙げられます。①に関しては、現在指導に使っている桜県営アパートの集会所は県営住民のみしか使用ができないため、広い範囲から生徒を募集することができない問題を指します。②に関しては、初めは意欲を持って活動に参加していても、いずれは飽きてしまったり他の活動や学業との関係で継続的に関わってくれる人が居なくなったりする問題を指します。

以上2点の問題の明確たる解決策はまだありません。地域住民や運営人との話し合いの中で考えていく必要があるでしょう。

経験者からのメッセージ

教育系の企画で一番注意しなくてはならないことは、生徒の保護者との信頼関係です。

いち大学生に自分の目の届かない所で子供の指導を任せているのですから、保護者のみなさんが不安を感じるのも当たり前です。

自分の子供はどのようなことをしているのだろうか、講師の方はどんなことを考えてくださっているのだろうか、変なことにはなっていないだろうか。

大学生による無料の塾を開講するにあたって乗り越えなくてはならない一番の壁は、まさにその「保護者と学生の間的心灵的な障壁」なのです。

さくら塾は、大学公認活動という看板と保護者の皆さまのとても協力的な姿勢、そして学生講師の志によって奇跡的に成立していました。具体的な手法としては、小学生の部における通知表や中学生の部における保護者との連絡帳、後は保護者とのMTGなどが挙げられます。

大学生いち個人の信用なんて、一歩大学から出れば無いに等しいです。それが塾であれ企業であれ大学であれ、何かしらの看板を背負い、その権威を上手く用いながら活動をしていかななくてはなりません。

T-ACTという枠組みは、大学公認活動という大きな力を与えてくれます。勿論それのみでは保護者や地域の方の不安を払拭することはできませんが、その看板がある場合と無い場合では、その差は歴然としています。

是非、看板を有効活用しましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者には元から学習支援を行いたいという積極性あふれる学生が多かったので、学生自身の変化は運営者から見ては特に見受けられませんでした。しかしながら、そのような積極性・社会貢献意欲のある学生に場を提供するだけでも、本企画の意義、運営者が苦心した意味はあったのではないかと考えます。

T-ACT に関する感想

全く要望はありません。印刷費、愚痴聞き、叱咤激励などなど、十分すぎるほどT-ACTの皆さまにはお世話になりました。

この場でお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。そして、3rdもよろしくおねがいします。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 『iPhone アプリコンテスト』開催！～筑波大生のための iPhone アプリを考えてみませんか～ (10017A)

T-ACT プランナー 川本 貴之 (システム情報工学研究科)

活動内容

- ・ 昨今、移動体通信の主力候補として注目されているスマートフォン。その火付け役となった iPhone のアプリケーションは大学生活にも活かせるのではないだろうか。その一つの方法として、筑波大生として需要のあるアプリケーションのアイデアを募集してそれを形にしたいと考えた。例えば、MIT では、MIT NEWS というアプリが開発されている。
- ・ 筑波大生全体で筑波大生の目線でアプリケーションを作り上げ、学生生活を豊かにすることが目的。また、その過程において、学生のレベルアップと移動体通信による教育・生活への興味をかき立てられればと考えている。
- ・ 活動内容は筑波大学に在籍する学生から iPhone アプリケーションに関するアイデアを募集し、その中から受賞作を決定、最終的には実際に使用できるアプリケーションとして開発すること。1次選考は、学内の携帯所有者が web 上から投票することによって最終選考通過アイデアを決定する。最終選考は学内の教授や学生スタッフなどによって行われ、受賞作は、決定後、イベントとして大々的に発表する予定。
- ・ アイデアを提供してくださる学生の方々および 1次審査の投票に参加して出さる方々をパーティシパント、運営スタッフをオーガナイザーとして募集する。
- ・ 運営スタッフは宣伝広報、受賞作発表イベント運営、最終審査、学生としてアプリ開発など意欲と適性に合わせて行ってもらおう。

活動期間

平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日

活動計画

平成 22 年 9 月～ 10 月	活動開始 アイデアを募集
11 月～ 12 月	応募アイデアを web 上で公表 1次審査投票募集
平成 23 年 1 月	1次選考通過アイデア決定
2 月	最終選考 結果発表 表彰および受賞作発表イベント開催予定 活動終了

備考欄

【連絡先】

柏 零 (社会工学類 3 年) : kashiwa70@sk.tsukuba.ac.jp (まずこちらへ)

川本貴之 (システム情報科学研究科 2 年) : takaroom1118@yahoo.co.jp

T-ACT オーガナイザー

石田 尚（システム情報工学研究科）
 野崎 徹（システム情報工学研究科）
 田口 雅也（システム情報工学研究科）
 栗田 哲也（システム情報工学研究科）
 柏 零（社会工学類）

T-ACT パートナー

近藤 文代（システム情報工学研究科）
 香田 正人（システム情報工学研究科）
 渡辺 俊（システム情報工学研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 8月11日 キックオフ・ミーティング
- 8月17日 ミーティング
- 8月25日 協力企業とのミーティング
- 8月26日 HP作成
- 9月1日 アイデア募集開始・ウェブ/ポスターにて第一次広報開始
- 9月8日 協力企業とのミーティング
- 9月10日 ミーティング
- 9月12日 iPhone 貸出開始
- 9月17日 ミーティング
- 9月27日 キャリアデザインの授業で告知プレゼン
- 10月31日 一次審査にてアイデアを選出
- 10月1日 ウェブにて、学生による人気アイデア投票を開始
- 10月4日 ウェブ/ポスターにて第二次広報開始
- 10月11日 ミーティング
- 10月18日 ミーティング
- 10月31日 協力企業とのミーティング
- 11月8日 ミーティング
- 11月9日 第二次 iPhone 貸出開始
- 11月15日 ミーティング
- 11月29日 ミーティング
- 12月9日 ミーティング
- 12月17日 ミーティング
- 12月20日 ミーティング
- 1月18日 参加者選出/参加者に告知
- 1月19日 審査員選出/審査員に告知開始
- 1月20日 ウェブにて告知開始
- 1月22日 協力企業とミーティング
- 1月28日 ウェブにて再告知
- 1月31日 ミーティング
- 2月1日 審査員増員
- 2月2日 ミーティング
- 2月14日 ミーティング・イベント当日
- 2月15日 フォローメール送信

アイデアに対する投票者 127名

アイデア発案者 49名

当日審査員 7名

当日聴講者 10名

・目標達成度

95%

今回は、iPhone アプリケーションのアイデアを募集するのみだったが、ベンダーの企業の方に非常に興味を持っていただいたこと、また、審査員である教授陣・実業家の方々から非常に高評価を頂いたことから、この達成度とした。

唯一、小目標としてアイデアに対する投票者を150人にするという目標のみはあと一歩及ばなかったため、5%を差し引いた。

・得られた成果

1. 筑波大生が、筑波大生のために発案したアプリケーションが実際に誕生するきっかけができたこと
2. 筑波大学生に、よりスマートフォンの利便性、これからの暮らしに対するモバイルの重要性に関するインパクトを与えられたこと。(少なくとも1000人がHPを閲覧した)
3. アイデア発案者が、自らの発想を他人に伝えるという点で、飛躍的に成長したこと
4. 外部協力企業や審査員の方々に、意欲的で非常に高いクオリティの取り組みを示すことができたこと
5. T-ACTを通せば、少人数であっても200人を6ヶ月に渡り巻き込めるプロジェクトができるという実績を残したこと

今後の課題

大きな問題はプロモーション（広報）です。

このうち、問題は3つに分けられます。それはメンバー集めのための広報、アイデアの発案者・投票者を募るための広報、そしてイベント当日のための集客広報でした。

T-ACT様のご協力を頂き、ポスターやT-ACTシステム上での広報は問題なく行えたのですが、まだまだ学生への浸透が薄く全般的な人集めに苦勞致しました。特にアイデアの募集・投票者の募集、および、イベント当日の参加へのインセンティブは、個人の興味関心におけるところが多く、SNSやツイッターを駆使しても、そもそも筑波大生の中でウェブやスマートフォンなどに関心がある方の母数が少ないと考えられ、なかなか多くの数が集まりませんでした。

この課題に関して、解決策が2つ考えられます。

1つ目は、T-ACTのイベント一覧リストを定期的に筑波大学の全学生に配信することです。現在、T-ACTに関与した学生にはイベントのお知らせメールが配信されます。ベストなのは、T-ACT関連の広報により強い権限を付与することです。例えば、我々が、学類や専攻、研究科向けのメーリングリストにたまたまコネクションがあり使用したところ、高確率で学生からリアクションがありました。このことより、学生一人一人にアプローチできるような当該メーリングリストを、T-ACTに参加する企画であれば、自由度をもって使えるという権限があれば、一定の解決策になるのではないかと考えます。しかし、企画の一つ一つがそれぞれ権限をもって、どの学類のメーリングリストも使えるというのは、実現可能性が低いので、T-ACTのイベント一覧リストを定期的に筑波大学の全学生に配信してはいかがでしょうか。

2つ目は、学生がより興味を持つテーマに関連付けた広報を行う、あるいは広報の専門家である学生に常にアプローチ可能な状態にしておくという策です。

なぜなら、スマートフォンのアプリアイデアを考えることと、学生が興味を持っていることを効果的に関連付けられれば、より多くアイデアや投票者、当日の観覧者を集めることができたと考えられます。

そのために、広報に慣れている専属スタッフ（学生など）を設置されてはいかがでしょうか。現在は広報に関してもコンサルタントの檜村さんが助言を与えていることと思います。しかし、専属の人間が、SNSやウェブに「刺さる」言葉で時間を割いて動く、となると、さらなる効果が期待できるのではないのでしょうか。

以上、課題と解決策のご提案でした。

経験者からのメッセージ

最初の想いに基づいて活動し、決して妥協しないで欲しいと思います。実際に我々も、利害関係の調整や、実働メンバーの少なさから幾度となく妥協することを考えました。しかし、筑波大を本当に変えていくのは、大学本部でも教員でもなく我々です。

当初の問題意識、こういう活動があったらもっと学生生活が楽しくなるのに！という熱い思いを決して忘れず、頑張ってください。

頓挫しそうな時も、T-ACTや今までのイベントたちがきっと手助けしてくれるはずですよ。ですから決して妥協せず、あなたの当初の想いを曲げずに、最高のものを追求していきましょう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者のうち、最終プレゼンを行ったパーティシパント5人に関しては変化が顕著でした。それは、アイデアを応募した際と、それから2か月後の最終プレゼンを行った時の比較です。当初は、あまり練られておらず、突っ込みどころも満載だったアイデアも、最終プレゼンの際には、教授陣や企業関係者を魅了するようなアイデアに完成していました。彼ら5人はもちろん、アイデア発案者、ひいては投票者にいたるまでも、「今筑波大に必要なものはなにか」という状況把握・ニーズを論理的に追う力がついたのではないかと感じました。

T-ACTに関する感想

【感想】

T-ACTには本当にお世話になりました。スタッフのお二人は、縦からの支援というよりもむしろ横からの支援をしていただいたような感じです。上から指示を出すだけでなく、非常に距離が近く何でも腹を割って話し合える。二人三脚的な支援をしていただいたように感じます。そのおかげもあって、どうにか企画の完遂に至ったと思います。また、後悔としてはT-ACTを有効に活用できなかったがあります。このT-ACTには非常に豊かな人的ネットワークが存在しているように思います。T-ACTに関わる人たちとつながることができれば、自分たちの企画はさらなる可能性を追い求めることができたのではないかと、反省しています。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 遺伝子組換え勉強会（10018A）

T-ACT プランナー 緒方 辰悟（生物学類）

活動内容

近年、世界では遺伝子組換え技術（GM）を中心にした植物バイオテクノロジーが大きな成果を上げ、未来に置いて欠かすことのできない技術として研究がすすめられています。しかし、日本の一般社会においてはGMに対しての認知が十分進んでおらず、話し合いさえままならない状態です。この企画は、学生が中心となって現状の遺伝子組換えについて知識を深め、活発な討論を行い、社会への積極的な情報発信をしていくことで、遺伝子組換え技術の理解増進を図るものです。

活動期間 平成22年9月16日～平成22年12月16日

活動計画	平成22年9月	メンバーを集め、計画を練る
	9～12月	勉強会の実施 ホームページや学内新聞用の原稿作成
	12月	活動報告書を書き、T-ACTに提出

備考欄

＜活動目標＞
遺伝子組換え技術についての勉強会を行い、そのまとめとしてホームページや学内新聞を作成し、発表する。
活動日：活動期間中の毎週木曜日 18：30～20：00

T-ACT オーガナイザー

T-ACT パートナー 古川 純（生命環境科学研究科）

活動報告

活動成果

組換え技術に関する知見を多く得て、そのうえでPA（パブリックアクセプタンス、社会的受容性）について一般市民の目から組換え技術をどう見るかについて検討する。

・ 実際の内容

ミーティングを行い、学内のポスターで参加者を募ったが、一人も集まらず。その後、研究室の先生との話し合いにおいて、組換えに関する情報提供に関する様々な制約等を聞く。広く遺伝子組換えに関して知ってもらおうと壁新聞などの作成を試みるが、従来の活動目標と方向性が著しく異なっていることを指摘され、今後の活動に関して考える時間を欲しく思い、中と終了ということとなった。

今後の課題

- ・大きく社会問題視されている事柄、特に「団体として反対勢力が存在する事柄」に関しては、例え限定された区間内（学内やインターネット上など）であっても細心の注意を払って活動すること。また、そのような事態が起こるかどうかを事前によく考えること。

経験者からのメッセージ

- ・一人でもおこなえる活動（少なくとも自分ではそう思っているもの）ならば、始めから一人で行えるかどうかを活動前にシミュレーションすること。特に、他人や他の団体との交渉や援助など「不確実なところ」の楽観的な予測はやめる。
- ・多人数で行う活動の際には、あらかじめ活動可能な最低人数を確保してから始めること。自分の興味が他の人（たとえ自分と同じ分野で勉強や活動している人）にも当てはまるとは思わないこと。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 学生 Watching！！（10020A）

T-ACT プランナー 金岡 孝浩（人文学類）

活動内容

積極的に活動している筑波大生を取材して紙メディアを製作し、学園祭での T-ACT ブースに掲示する。

学園祭当日にブースに訪れた地域の人に筑波大学生の活動を広報する事、取材された学生のモチベーション向上を目的とする。

学生が行う具体的な活動内容は

- ①学生を取材する
- ②取材した内容からイラストレーター等を使って紙メディアを製作するの二点。

どちらか片方だけやりたいという人も是非参加してください！

活動期間 平成 22 年 9 月 14 日～平成 22 年 10 月 11 日

活動計画	9 月 14 日	T-ACT 企画として承認（予定）
	9 月 15 日～ 10 月 8 日	取材→紙メディア製作
	10 月 5 日	製作完了。印刷
	10 月 9 日～ 10 日	学園祭の T-ACT ブースにて掲示
	10 月 11 日	企画終了。反省を提出する。

備考欄

T-ACT オーガナイザー 田川 鮎美（心理学類）

T-ACT パートナー 小林 奈美子（学生部学生生活課）

活動報告

活動成果

・ 活動内容

09/14 企画成立

09/30 鮎川亮太さん取材

10/01 重原美緒さん取材

10/02 平山雅英さん取材

10/04 浜名真幸さん取材

10/07 米満直樹さん取材、文章作成
 10/08 文章完成。
 10/09-10 学園祭にて展示。

・目標達成度

閲覧者の方からは前向きな評価を、取材相手の方からは「想像以上のクオリティ」というお言葉を沢山いただいたため、十二分に目的は達成できたと感じる。

・得られた成果

作成した記事は取材相手の方からの許可をもらった上でT-ACT室に掲載し、今後とも多くの人に活躍を知ってもらおうと思っている。

今後の課題

取材する対象には事欠かないと思うのですが、制作する側の人的資源が圧倒的に少ないのが問題だと思います。

一人でやるのは正直中々厳しいです。締め切り二日前から授業全休になるレベルで厳しいです。

本企画の流れは【取材⇒文章作製⇒メディア作成】の3工程に分けられます。各工程ごとに担当者を分けるか、取材した人ごとに担当者を分けるのが良いと思います。

経験者からのメッセージ

音楽やダンスなど、芸術系の学生はステージという「自らの努力の発表の場」があることに対して、裏で企画を支えるイベントプロデューサーなどは中々成果が世間に露出する事無く、一部の人のみはその苦悩と努力を知っているという現状です。

本企画は、そんな「知られざる筑波の偉人達」の苦悩と努力を伝えよう、筑波大学のプロジェクトXを作ろうと思って始めました。

人には誰だって皆人生があり、物語があり、ドラマがあります。

それを見つけて、掘り出して、形にしていくのはとても面白いですよ。

今後は僕個人として、気が向いたときにチラホラやるような活動になると思いますので、ちょっとこの活動が気になった人は hagane420@yahoo.co.jp もしくは Twitter の [@haganeee](https://twitter.com/haganeee) にまで是非連絡ください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

取材相手の方は、皆生き生きと己の大学生活、やってきた活動、自分の価値観を語ってくれました。中には「自分のことを話してるうちに、自分のことについて深く考えさせられました。ありがとうございます」などといった、取材対象側の思わぬメリットもありました。

取材していただいた皆さんが今後活動していく中で、今回のことが少しでもプラスのモチベーションに繋がれば良いなと思っています。

T-ACT に関する感想

無料カラーコピー、ラミネート、取材用カメラ、ボイスレコーダー、掲示するスペース。どれを取っても十二分です。

ご協力ありがとうございました。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 学生のための護身術講座（10023P）

T-ACT プランナー 寺島 瞳（人間総合科学研究科）

活動内容

近年、筑波大学構内や近辺にて事件の発生が多く、学生が被害者になる例もある。そのため、学生の危機意識を高め、自衛の手段を身につけることを目的として行う。護身術の講師は茨城県警察本部にお願いする予定である。主催は総合相談窓口。安全キャンペーンと連動。

活動期間 平成 22 年 9 月 21 日～平成 23 年 1 月 31 日

活動計画

平成 22 年 9 月～ 10 月	・オーガナイザー募集 ・茨城県警察本部に交渉 ・その他内容をパートナーとともに詰める
11 月	・ポスター作成 ・参加者募集
12 月	実施日は 12 月 1 日～ 12 月 7 日のいずれか
平成 23 年 1 月	活動終了 ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

備考欄

T-ACT オーガナイザー 天田 正人（人間総合科学研究科）

T-ACT パートナー 土子 昇（学生生活課）

活動報告

活動成果

・活動内容

11 月 4 日 パートナーの土子様とミーティング

広報、つくば中央警察の方への依頼などについて、打ち合わせを行った。

11 月 4 日～ 12 月 1 日 広報活動

400 名分のチラシを各授業で配布して参加者を募った。また、各支援室にポスター掲示を依頼、大学ホームページにてイベント案内の掲載なども行った。電子掲示板では福岡県警察による「性犯罪防犯広報用 DVD」の一部を上映して、参加者以外にも広く注意喚起を行った。

12 月 1 日 学生のための護身術講座の実施

つくば中央警察の方に「筑波大学周辺での犯罪状況」についてお話いただいた後に、「性犯罪防犯広報用 DVD」を上映、最後に様々な護身術についてご指導いただいた。

・目標達成度および得られた成果

当初予定していた30名には届かなかったが、20名程度が参加した。つくば中央警察の方にお話いただいた「筑波大学周辺での犯罪状況」によれば、自転車やバイクの盗難、車上あらし、性犯罪なども大学周辺で多く発生しており、特に学生の居住地である天久保や春日地区、またつくば駅から大学方面の夜道などで多いとのことであった。特に性犯罪に関しては県内でも大学周辺の地域がもっとも多く発生しているということで、大学近辺が決して安全でないことが再認識された。メモを取りながら熱心に話を聞いている参加者もあり、第一の目標である危機意識を高めることは達成できたと考えられる。

また、自衛の手段として福岡県警察作成の「性犯罪防犯広報DVD」の上映、またつくば中央警察の方の実践的な護身術講座により、様々な自衛手段が身についた。例えば、一人で夜道を歩くときは携帯や音楽プレーヤーなど使用しないこと、万が一被害に逢いそうになったときは躊躇なくかかとを踏んだり相手の頬骨を殴るなどしてひるんだ隙に逃げ出す、近くにある田んぼに飛び込むなど実践しやすく分かりやすい方法を学ぶことが出来た。また、護身術講座では、腕をつかまれたときや後ろから抱き疲れた際の、手のはずし方や逃げ方を何通りも教えていただいた。参加者も二人一組となり、和気藹々と護身術を実践しており、大変楽しそうな様子であった。よって、第二の目的であった自衛手段の獲得についても十分に達成できたと考えられる。

参加者には学生生活課より防犯グッズが渡された。周囲から見えるよう身につけているだけでも防犯効果があるとのことであった。なお、本イベントの様子が次号の筑波大学新聞に掲載される予定である。

今後の課題

・問題や困難、課題など

広報活動は活発に行ったつもりであったが、なかなか参加者が集まらないことが問題であった。チラシの配布、ポスター掲示、大学やT-ACTホームページでの案内掲示以外にも、広報の手段を考える必要があったと思われる。

経験者からのメッセージ

学生相談室のカウンセラーとして学生のメンタルヘルスに関する予防活動がこのような形で行えることが新鮮でした。学生だけではなく教職員にとっても日々行いたいと思う活動を支援してくれる良いシステムだと思います。また、自身も参加することで楽しめます。職務に関連する内容でもそうだけでなく、T-ACTの支援を受けながらプランをたてて実施することは、学生だけでなく教職員自身も日々の職務から少し離れて元気になれる良い機会になると思いました。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者がこの企画を通して、危機意識が高まり、対処への自信を身につけたように感じられた。

T-ACTに関する感想

特にありません。どうもありがとうございました。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 なんやかんや就活～内定者と話す～（10031A）

T-ACT プランナー 及川 直人（体育専門学群）

活動内容

- ・筑波大の就活に欠けていた、就活生と内定者とのつながりを創出し、筑波大の就活を盛り上げていく。
- ・「内定者ネットワーク」を創設し、次年度以降も引き継がれる活動にしていくことを目的とする。
- ・偉大な社会人の話を聞き、自分の進路決定の参考にする。

就職活動に対して、知識、意欲等が、あまりない3年生、修士1年生にこれからどんな行動を起こしていけばいいか具体的なイメージを、描いてもらい、就職活動に対する不安解消やモチベーションの向上を図る。

なお、民間の就職活動がメインになるが、公務員や教員、留学生にも対応できるように努力していく。

イベント概要は以下の通り

＜内定者によるブース形式の座談会＞

合同企業説明会のように、内定者がそれぞれブースを構え、学生が興味のあるブースを訪ねる。1ターム25分程度とし、3～5タームを予定している。

内定者からの一方的な講義ではなく、学生からの質問をメインにしていく。

内定者には民間企業はもちろん、公務員や教員、留学生なども呼ぶ予定。

日時は、平日の18～21時を予定しており、場所は大学会館の特別会議室などを希望している。

現時点で構想段階だが、著名人を呼んでの講演も同時に開催することを検討している。

活動期間 平成22年11月2日～12月31日

活動計画	平成22年11月上旬	・内定者スタッフ募集（20名前後）
	11月中旬	・集客開始
	12月中旬	・イベント開催
	12月下旬	・イベントの振り返り、内定者ネットワーク創設

備考欄

T-ACT オーガナイザー

中村 貴樹（社会学類）
田端 雅史（システム情報工学研究科）

T-ACT パートナー

嵯峨 寿（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 11月9日 ミーティング
- 11月17日 ミーティング
- 11月24日 ミーティング
- 12月14日 ミーティング
- 12月21日 イベント開催
- 12月22日 反省会

・目標達成度

90%

参加者にとって非常に有益なイベントを作ることができたため。

・得られた成果

筑波大学にあまりなかった、内定者と就活生（先輩と後輩）のコミュニケーションを促進することができた。

今後の課題

会場を押さえるときに若干の苦労があった（200人を集め、ブース形式でイベントを行える教室はなく、会館を借りたかったが、その借用のために関係各所を回らなければならなかった。）

経験者からのメッセージ

「なんやかんや就活」は就活で悩む就活生を一人でもなくしたい。先輩の話が聞ける場所を作りたいという思いで開催したイベントです。

イベントのコアメンバーは5人だけでしたが、それでもなんとか200名規模のイベントを開催することができました。自分1人ではできなくても、心強い仲間がいればできないことはありません。

大切なのはリーダーが、いや、あなたが「やりたい」ということ。そこからしか物事は始まりません。

運営者側から見たパーティシパントの変化

就活に対する意識が大きく変わったように感じる。実際に内定者と話すことはかれらの悩みの解消に一役買ったようだった。

T-ACT に関する感想

広報の面で非常にお世話になりました。ビラの印刷や電光掲示板、掲示許可などがあるだけで告知がうまくいきました。本当にありがとうございます。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 「チェルノブイリ」のいまと向き合う（10033A）

T-ACT プランナー 松下 聖（人文学類）

活動内容

【活動内容】

2011年2月（予定）、チェルノブイリ子ども基金事務局長の佐々木真理さんに、チェルノブイリ原発事故や被害者支援の現状について本学内で講演していただくこと、講演に向けた広報が主な活動内容です。なお、参加費は無料です。

【企画の目的】

1986年に発生したチェルノブイリ原発事故から、もうすぐ四半世紀を迎えようとしています。原子力発電所の爆発により広島型原爆およそ500本分の放射性物質が撒き散らされたこの事故の傷跡は、現在でも消えることがありません。被害地域の土壌汚染は未だに解消されず、また事故による放射能を浴びた子供たちが成長してから甲状腺ガンを発症するなど、苦しみは続いています。

しかし長い年月が経過し、とくにチェルノブイリから遠く離れた日本では、事故の記憶が風化しつつあるのが現状ではないでしょうか。節目の年を迎えたいま、チェルノブイリ原発事故について多くの人に思い起こし、あるいは知ってもらい、医療や政治など様々な角度からチェルノブイリ被害者支援や原子力の問題を考えてもらう、というのが本企画の目的です。

活動期間 平成22年12月1日～平成23年2月28日

活動計画	平成22年 12月	準備、打ち合わせ
	平成23年 1月	広報活動
	2月	講演会開催

備考欄 チェルノブイリ子ども基金 <http://www.smn.co.jp/cherno>

T-ACT オーガナイザー
 真浜 将吾（知識情報・図書館学類）
 清沢 紫織（人文学類）
 川西 秀美（人文学類）

T-ACT パートナー 白山 利信（人文社会科学研究所）

活動報告

活動成果

・活動内容

12月 活動開始

講演者、写真展事務局との連絡や交渉

1月11日～	ポスター貼り開始
1月12日	第1回スタッフミーティング
1月19日	第2回スタッフミーティング
1月28日	講演者との打ち合わせ（東京）
2月2日	第3回スタッフミーティング
2月7日	写真展準備
2月8日	「チェルノブイリ写真展」第一日（大学会館別館ホール）
2月9日	「チェルノブイリ写真展」第二日（同） 講演会開催（1C310）

・目標達成度

本企画（写真展・講演会）の目標は、「風化しつつあるチェルノブイリ原発事故の記憶を多くの人に思い出してもらい、事故から25年経った現在の状況を知ってもらうこと」であった。この目標はかなり達成できたと思われる。その理由は次の通りである。

《来場者数》

「チェルノブイリ写真展」には2日間で143名、講演会には25名の来場者があった。特に写真展2日目は、午前中は雪という悪天候にも関わらず、100名近い来場者があった。学生だけではなく、教員や研究員、近隣住民も訪れた。講演会の来場者数は写真展ほど多くは無いが、活発な質疑応答が行われるなど、密度の濃い時間となった。以上のように、約150人（写真展・講演会両方に来た人も多いため、アンケートより推定）を動員したことにより、多くの人にチェルノブイリの現状を知ってもらうことができた。

《来場者の声》

もちろん参加者の数だけではなく、質の上でも非常に良い成果を得られたと考えられる。それは来場者から寄せられた多くの感想・意見から知ることができる。「チェルノブイリの事故を知ることができた」「今後原発問題を考える上で、よい機会になった」「勉強になった」「衝撃を受けた」などの感想が大半を占め、中にはA4のアンケート用紙いっぱい感想や自らの意見を書き連ねた来場者も数名いた。来場者の声の一部は、次項「得られた成果」で紹介する。

《新聞報道》

「チェルノブイリ写真展」の様子は、2月16日常陽新聞3面にて大きく紹介された。これにより、さらに多くの人にチェルノブイリのことを思い返してもらうことができただろう。

・得られた成果

何よりも、来場者にとって、普段の報道や授業では知り得ないことを学ぶ良い機会になったことが、一番の成果であった。ここでは、来場者から寄せられた感想の一部を紹介する。

《写真展》

特に感じたのは、平穏だった生活を突然めちゃくちゃにされた理不尽さや、事故によって一生を狂わせられてしまった人々（特に幼い子どもたちや若者たち）の悲しみです。もう二度と事故の前には戻れず、しかしその悲しみやつらさを誰にぶつければいいのか分からない…。行き場のない思い・叫びが強く伝わってきました。（国際2年）

《講演会》

これまでチェルノブイリの原爆事故について、「そんな事故があったなあ」、「病気など被曝した方は大変そう」だといった漠然としたイメージしかなかった。今日のDVD上映&講演を聞いて、現状がよく分かりたいへん勉強になりました。すぐには何かできないにしても、こういう事故のことや

それに苦しむ人々のことを忘れずにはすることは大切だと思います。(人文社会科学研究所 準研究員)
また、会場では寄付金も受け付けていたが、計 15971 円集まり、そこから経費の一部を差し引いた 8801 円を、支援団体「チェルノブイリ子ども基金」へ寄付することができた。これにより、学習の機会を提供するだけでなく、実際の支援へも、僅かながら貢献することができた。

今後の課題

少ない人数でできる限りの広報をしたつもりだが、いま振り返ると、企画の内容に見合った広報ができる余地がまだまだあったと思う。実際の来場者には大学院生や教員、研究員もいたが、そういった人たちへの周知は不十分であった。これまでの他の T-ACT 企画の活動などで、学内へポスターを貼れる場所はだいたい把握していたつもりだったが、それは主に学群生向けの場所であった。今回の企画のような、専門的な興味を引きそうなものの場合、関連する研究室やゼミなどに直接広報をかけるなど、もっと積極的に行えばよかった。

計画が十分に練れておらず、ぎりぎりになって人員が確保できたりなど、綱渡り的な場面があった。写真展は初めて行ったが、あらかじめこういった活動のノウハウを持った人を運営側に誘いいたり、アドバイスをもらうなどしておくべきだった。最終的には成功と呼べる展示にはなったものの、計画の甘さは反省している。

経験者からのメッセージ

やってみたら何とかなってしまった、というのが正直言ったところ。

ただ、できる限りしっかり計画を立て、無理がないか、メンバー内や経験者の意見を集約することが重要だと思った。また、サークル活動などとは別の単発の活動のため、メンバー集めや、日程調整は苦勞した。

運営者側から見たパーティシパントの変化

「活動成果」の項目にも書いたように、写真展、講演会の参加者は、それぞれ新たな知見を得て、チェルノブイリ原発事故や日本の原子力政策などに関する思いを新たにできたと思う。

中には「4月から教師になるので、ぜひ生徒にも伝えていきます」「今までは(チェルノブイリのことに関して)本を読むなどして情報を得るのみだったが、自分自身ももっと関わっていきたく思った」とアンケートに記した参加者もいた。写真展や講演会に参加して終わり、ではなく、それぞれの今後の活動に繋がる、発展的なものとなったのは良かった。

T-ACT に関する感想

ここまで出来たのも T-ACT のおかげです。

何か、広報活動を学内の隅々までできるようなシステムがあれば助かります。学群生へは何かなくても、院生や教員への広報が難しいと感じました。

あと、「T-ACT の企画を支援する学生組織」があったらおもしろいのではないかと思います。現在でも「イベント MAP」という企画がありますが、常設の組織を作って、プランナー同士をつなげたり、企画の相談を受けたり。そうすると T-ACT の先生方の仕事を奪ってしまうかもしれませんが…。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 「あえてチョイスしてみる生き方」講演会（10034A）

T-ACT プランナー 平山 雅英（体育専門学群）

活動内容

- Q. 学歴を積んで、有名企業に勤めて、定年まで働こうとしていますか？
- Q. 大学院に行こうとしていますか？
- Q. 大手ナビサイトを使って就活しようとしていますか？

大勢が選ぶこの選択、実は
「ハイリスク・ローリターン」なんです。

企業寿命 30 年 < 就業寿命 40 年
個人サバイバルの時代では、
企業に依存せず、自立する術が求められます。

医師×アスリート×経営者、の顔を持つ湯本さんは、

医学出身だけど、医者にならない・・・
しかも、オリンピックを目指して 4 年間も休学する・・・
そんなチョイスをして、
現在、
半年はアスリートとして、
半年は経営者として、
活躍しています。

どのようにして、自分のやりたいことを実現していったのか、
その理由をお伝えします。

今、自分らしく生きるチャンスをチョイスしてみませんか？

活動期間 平成 22 年 10 月 26 日～平成 23 年 1 月 26 日

活動計画	平成 22 年 10 月	・ 活動開始 ・ メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
	11 月	・ メンバーが揃う。 ・ 広報の準備
	12 月	・ 広報開始

活動計画	1月	・当日までに準備を整える
	1月末	・活動終了 ・メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる
備考欄		
T-ACT オーガナイザー	榊原 敬治（物理学類） 明本 彩美（比較文化学類） 森 裕信（教育学類） 赤川 朗（数理物質科学研究科） 浜名 真幸（国際総合学類） 鈴木 修次郎（人間総合科学研究科） 小池 徹（社会学類）	
T-ACT パートナー	荒川 麻里（人間総合科学研究科） 三輪 佳宏（人間総合科学研究科）	

活動報告

活動成果

【運営体制】

- ・講演会の目的を明確にし、それに沿った運営ができたこと。
- ・運営方法について意見やアイデアを自由に言える雰囲気であったこと。
- ・他学類・学年の学生との交流があり、交友関係が広がっただけでなく、価値観も広がった。
- ・大きなトラブルがなかった。

【広報】

- ・つくウィーク（つくばで行われるイベント情報を集約したホームページ）を作成した。
- ・集客などにおいて他のイベントと協力することができた。

集客人数は76人。後半一気に集客数が伸びた。

経験者からのメッセージ

企画して、一番ネックになるのは集客面だと思います。

『誰に来てもらって、どうなってもらいたいのか』ターゲット、目的を明確に突き詰めて考え、メンバー全員で意見を出し合って、実行していく、とても単純ですが、とても難しいです。今までT-ACTで企画をしてきた先輩方は色々なことを教えてくれるので、積極的に聞いて回って、どんどん後輩世代まで良い企画が受け継がれていくことを願っています！！

今後の課題

【運営体制】

- ・講演会当日までのスケジュール管理がしっかりできていなかったこと。特に集客の部分で最後まであたふたしていたように感じた。
- ・役割分担が曖昧。
- ・講演者湯本さんに、全スタッフがお会いすべき。
- ・事前のメンバーの交流が少なかった。決起集会をしていたらよかったのでは？

【情報共有】

- ・メーリングリストでの情報共有がうまくいっていなかった。一部の人には、連絡が届いていなかった。
- ・情報が二転三転した。とくに、講演会タイトルと講演内容が確定する時期が遅かった。

【広報】

- ・ビラ配りが2、3学に偏っていたこと。体育や医学にも配る人員配置をするべき。
- ・今回の講演会のキャッチコピーが「個人サバイバル時代の進路選択」であったが、性別関係なく広範囲にターゲットを定めた場合、もう少し柔らかい表現がよかったのではないかな。
- ・広報する対象が曖昧。
- ・ビラの配布場所によって工夫が必要。例えば、医学では、ビラに医学類の学生がひっかかる言葉を書いておく。

【当日対応】

- ・遅れて参加した人へのアンケート配布
- ・前後でかぶらないように座らせるべき。

【運営】

- ・ustreamの音声聞き取りづらかった。
- ・司会者が伝えるべき事項を、話し忘れた。

【その他】

- ・話を聴いて得たいものを明確にすべきであった。
- ・湯本さんの経歴・やっていることなどがわかる資料があればよかった。例えば、マインドマップ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

姿勢に関してのお話のとき、全員が身体を動かしながらエクササイズをしていたので、参加者と一体になることが出来た。また、質問が思いのほか、多く出た。そして参加者の中には、これから姿勢に気をつけて生活しようという学生もいた。

T-ACTに関する感想

企画の最初から最後まで面倒を見てくださってありがとうございました。

特に印刷物等で大変お世話になりました。

一番嬉しかったのは、当日にわざわざ足を運んで見に来てくださったことです。

本当にありがとうございました。



T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 岸英光コーチ単発講座（10035A）

T-ACT プランナー 福地 峻（工学システム学類）

活動内容

年間 400 件以上講演を行うコーチングの第一人者である、岸コーチにコミュニケーションにおける肝をワークショップとして開いてもらい、参加してくれる筑波大学関係者の方に、素晴らしい人生を歩んでもらい、素敵な社会創造のきっかけにしたい。

岸さんについて詳しくは、

<http://cto.communication.ne.jp/html/kishi-prf.htm>

＜講演日 2011 年 1 月 21 日（金）＞

【講座内容】

「パラダイム」人の行動を妨げるメカニズムの存在について学び、適切に扱い結果を出すセンスを習得する。

【会場】

3A202（仮）

【時間】

18：00～21：00（仮）

【定員】

200 名（仮）

【参加費】

¥3,000 -（講演料、交通費として使用）

活動期間

平成 22 年 11 月 18 日～平成 23 年 1 月 31 日

活動計画

平成 22 年 11 月	メンバー 11 人で活動を開始する。 役職（交渉係、営業係、会計、講座内容）の決定。 各人がそれぞれの仕事を開始する。
12 月	事務作業、宣伝活動、会場決定を行う。
平成 23 年 1 月 21 日（金）	講座開催
1 月末	メンバーで反省を行い、活動報告書をまとめる。

備考欄

T-ACT オーガナイザー

重原 美緒（教育学類）
 森 裕信（教育学類）
 矢田 晃一（社会工学類）
 赤川 朗（数理物質科学研究科）
 北村 百代（教育学類）
 田中 宏明（心理学類）
 大曾根 圭介（システム情報工学研究科）
 浜名 真幸（国際総総合学類）
 鮭川 亮太（社会工学類）
 中島 真美（労務課）
 長田 ひとみ（社会学類）

T-ACT パートナー

伊藤 太平（総務部人事課）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 11月26日から毎週金曜日ミーティング。
- 12月8日 岸さんとの顔合わせ
- 1月21日 講座当日。無事完了
- 1月23日 反省会

参加費集計→¥210,000

目標参加人数は100人だったので、人数の面では目標に達成しなかったが、参加者からの満足度は高く、懇親会では人の輪も広げることができた。また、卒業される素晴らしい先輩方との講座作りが、来年からも在学する学生にとって様々な面でプラスになったと感じた。

今後の課題

講座が参加者に対して影響を及ぼすということに対して、意識が甘かった部分があった。その結果、集客の面がふるわず、運営側に不安やストレスが当日まであったように感じた。次回以降、運営側が高い意識と意図を持つことを注意していきたい。雑務の面では良く準備されており、大きな問題が生じることなく講座を完了することができた。

経験者からのメッセージ

企画に対して意図や目的を明確にしてほしい。そこさえできていれば良い企画にできると思います。企画を通じて生じる雑務に関しては入念な準備が大事だと思います。不備がないようにミーティングを行い、議事録、各人の仕事の進展状況の共有をしっかりと行ってください。

また、その記録を体系だてて取っておき、次何か行うときにスムーズに仕事が行えるようにしておくと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化（参加者は変化した？）

講座の内容が、朝起きられない、課題を後回しにしてしまうなど普段結果が出せないことに対してどう結果を出すかというものだったが、講座の参加者はそれらに対して確実に意識が変わったと感じる。

運営側の人達にとっては講座を開くことを通じ、一つ一つの行動の意図、目的を持つことができるようになった。

T-ACT に関する感想

何か行動を起こそうと感じている学生にとってT-ACTの補助は大きな助けになっていると感じました。自分達も大変お世話になりました。ありがとうございます。

問題点として感じたことはT-ACTの文化が学生にとっても職員にとってもまだまだあまり根付いていないと感じました。なので、T-ACTを学生や職員の目にもっと触れるものにしてほしいです。また、職員の方は毎日の業務が忙しく大変かもしれませんが、職員の方も積極的に参加するという環境になれば筑波大学がより良くなるのではと思います。



T-ACT つくばアクション プロジェクト



企画名 新春！大餅つき大会を開催しよう！！第二弾！！（10036A）

T-ACT プランナー 中島 隆伸（体育専門学群）

活動内容

今では日本人でも経験することが少なくなっている、日本のお正月の伝統的なイベントである餅つき大会を去年に続き今年も開催します。機械などを使わず、臼と杵を使った本格的な餅つき大会です。もちろん、ついたお餅はその場でおいしく、みんなでいただきます！

留学生に日本固有の餅つきを知ってもらい、餅つきを通して交流を深めることを目的としています。国境を超え、みんなで協力しあっておいしいお餅を作りましょう！

第1回の経験・反省からより良い餅つき大会が実現できると思います。気楽にたくさんの人に参加してもらいたいです。

大餅つき大会について

【開催日】 1月下旬～2月下旬

【開催場所】 平砂食堂前

【必要材料】 臼、杵、ブルーシート、紙皿、割り箸、バケツ、遊び心、その他未定

【内容】 全学に広報を行い、餅つきをして食べる会を催す

そのときに、参加費（材料費代）を徴収したい

活動期間 平成22年12月1日～平成23年2月13日

活動計画	平成22年 12月	活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
	平成23年 1月上旬	・ 広報活動を開始 ・ 引き続きメンバー集め、打ち合わせを続ける ・ リハーサルを行う
	1月下旬～ 2月上旬	・ 大餅つき大会を開催！ ・ 活動終了

備考欄

T-ACT オーガナイザー
明本 彩美（比較文化学類）
柏倉 圭介（社会工学類）
鹿志村 むつき（化学類）
牧野 美咲（化学類）
建部 祥世（日本語・日本文化学類）

T-ACT パートナー 伊原 大策（人文社会科学部言語学専攻 外国語センター長）

活動報告

活動成果

活動内容

大まかな流れ

12/10	活動開始 メンバー集め
12/13	前回プランナーの岩田さんと面会
12/15 ~ 20	杵、臼の手配 メンバーの高校の先生に連絡 メーリングリスト作成
12/26	ゲストでメンバー顔合わせ 役割分担
1/2	ポスター完成
1/7	ポスター設置
1/14	保健所、学生支援科に企画書を提出
1/18	ビラ配り
1/27	アンケート完成
1/29	餅つき大会開催
2/1	反省会

今回の活動目的は「異文化交流」である。筑波大学では多くの留学生を受け入れているが、日本人との交流の場も少なく、交流を促すイベント・システムが乏しいのが現状である。また日本人学生も留学生との交流を望むものが多くいるが、そのきっかけをつかめないままにいる人が多い。今回の活動はそんな留学生と日本人学生の交流の場を作り、コミュニティーの形成のきっかけとなること、まさに「異文化交流」を目的とした。また留学生に日本のことを好きになって、母国に帰ってもらいたいと思い、日本の伝統文化である餅つきを通して交流を図ろうと考えた。

杵や臼などの餅つき自体に必要なものはメンバーの母校の先生に借りることができ、自分たちメンバーは広報活動・交流促進活動に専念することができた。そのことにより 80 人前後の参加者が集まった。またお忙しいながらも当日先生にお手伝いしてもらえたので、餅つきのことに関してはまったく問題がなかった。先生の助けがあったことで私たちメンバーはイベントの運営に専念することができた。

当日は餅つきだけでなく、豚汁やマジックショー、大縄跳びを行い、なるべく多くの人が交流できるような態勢を作った。豚汁は宗教上の問題もあり、豚なし汁と豚汁の二つを作ることで解決した。マジックショーは、マジシャンズクラブの方々が突然の依頼にかかわらず快く引き受けてくださって、実現することができた。大縄跳びはツクスポから借りることができた。マジック・大縄跳びによって多くの交流を図れたと思う。またイベント後のアンケート調査でもマジック、大縄跳びが好評であった。

今後の課題

事前活動

- ・ポスター貼りなどを行うときにメンバーが成人式などの予定があり、スムーズに行えなかった
- ・活動開始が遅かった
- ・自分たちが主体となって活動する機会が今までなかったので、初めはどうのようにすればいいかわからなかった。
- ・T-ACT で何ができて何ができないか分からなかった。
- ・学年・学部がまったく異なるメンバーが集まったので、みなで集まれる時間の確保が大変であった。

当日 / 当日の準備

- ・食堂の人に連絡がきちんと伝わってなかった。食堂の人の好意で机を借りることができた。
- ・何を具体的にするのかスタッフがわかっていなかった。

受付

- ・名前チェック、参加費支払いと名刺づくりを同じ場所で、しかも一人で管理していたために混雑した
- ・受付の設置場所が悪かった
- ・名簿で名前を探すのに一苦労した。日本人と留学生を分けるべきだった。

餅つき

- ・食べ方を知らない人がいた
- ・風が強かったので紙皿が飛んだ
- ・きな粉が余った
- ・寒さのせいか飲み物が余った。ジュースは人気があった
- ・餅つきのペースが速かった。3回で1時間は余裕

その他

- ・集合写真を撮るべきであった。
- ・机との机の間が狭かった
- ・指示不足のゆえに参加者は次になにをすればいいかわかっていなかった。
- ・段取りをうまく詰めていなかった。
- ・当日どんなトラブルが起こるか、想定していなかった。
- ・当日スタッフが足りなかった。当日は4人

良かった点

餅つき・内容

- ・代わる代わるいろんな人が餅つきをしてくれた（伝統文化を経験してもらうという一番の目標を達成できた） 節分もできた
- ・内容が盛りだくさんで飽きさせなかった=途中で帰る人少なかった
- ・大縄、マジックは意外と好評（マジックはちょっと尺が長かったという意見も）
- ・豚汁もやって大正解 人気があった
- ・たくさん人きた！（80～90人くらい）
- ・バランスよく様々な人が来てくれた（体専やアジア以外の外国人）→広報が良かった いろんな人に呼びかけた効果出た
- ・スタッフ以外の会場にいる人が積極的に助けてくれた
- ・自然とみんな交流していた →会が終わったあとも残って交流する人もいた（もう一つの目標も達成！）

経験者からのメッセージ

ぜひ自分を誘ってくれ！

運営者側から見たパーティシパントの変化

変化の連続

T-ACT に関する感想

T-ACT 最高!!!

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 社長超特別講演 in 筑波～挑戦し続ける人々～ (10044A)

T-ACT プランナー 岡藤 将也 (情報科学類)

活動内容

私たちは「筑波大学を盛り上げる」ことを目標に活動しています。都心から離れた場所にあり、「陸の孤島」と呼ばれる環境をもつ筑波大学ですが、優秀な学力を持ち、熱き思いを持った学生は本当に多くいます。

しかし、筑波大学の学生の中には視野かが狭く、固定観念にとらわれている人が多いのも事実です。例えば、安定しているという理由だけで、大手企業に就職する学生や、研究をすることしか視野にない学生などがそうです。それは自分と知らない価値観をもった人に会ったり、行動を起こすきっかけとなる環境が整っていないからだと思っています。筑波大学の学生が、もっと広い視野を持つと、世界に通用する力が身につくと私たちは考えています。

筑波大学は研究学園都市です。現在は、この環境を学問のみにしか生かしてきていないと思います。特別な環境にある大学だからこそ、学問以外にも出来ることがあると思います。筑波大学が盛り上がり、日本をになっていくような学生が生まれることを私たちは目指しています。

今回のイベントを通して、私たちは挑戦という事を伝えることが出来ればと思っています。それは、何か新しい活動をする大きなことや、知らない人に話に行くという小さなことかもしれません。しかし、このような、新しい一歩を踏み出す力の大切さなどを知ってもらい、実際に変わってもらえれば思い、今回のイベントを開かせていただきました。

イベントに参加してくださった方が何か変化するだけでなく、参加していないような人にも影響をあたえるようなイベントを作っていきたいと思っています。

イベント予定日

2月18日 18:30～21:00 @ 大学会館

活動期間 平成23年1月4日～平成23年2月18日

活動計画	平成22年 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・講師陣キャスティング ・企画内容話し合い&企画書作り
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・講師陣の決定 (初旬) ・広報開始 (中旬…15日～20日) ・Webサイトオープン (中旬) ・外部と打ち合わせ、詳細の具体化
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の詳細決定 ・イベント開催

備考欄

T-ACT オーガナイザー 石田 航太郎 (社会工学類)
梅野 なぎさ (社会学類)

T-ACT オーガナイザー

島田 佑允（生物学類）
 島田 悟（生物学類）
 末吉 くりあ（社会学類）
 山田 大地（地球学類）

T-ACT パートナー

加賀 信弘（人文社会科学研究科）

活動報告

活動成果

・活動内容

11 月末日 企画書制作スタート
 12 月 5 日 MTG
 12 月 11 日 AllAbout 企画書提出
 12 月 12 日 MTG
 12 月 19 日 MTG
 12 月 27 日 AllAbout の会社へ講演依頼
 1 月 7 日 AllAbout 社長講演決定
 1 月 8 日 T-ACT 申請
 1 月 9 日 MTG
 1 月 11 日 T-ACT 決定
 1 月 11 日 AllAbout コンテンツ打ち合わせ
 1 月 13 日 トレンダーズ企画書提出
 1 月 16 日 MTG
 1 月 18 日 トレンダーズの会社へ講演依頼
 1 月 20 日 C&C へのファシリテータの依頼
 1 月 23 日 MTG
 1 月 24 日 トレンダーズ社長講演決定
 1 月 24 日 マクロミルへ講演依頼（トレンダーズ越しに）
 1 月 25 日 マクロミル常任理事講演決定
 1 月 30 日 MTG
 2 月 1 日 MTG
 2 月 4 日 AllAbout 最終打ち合わせで会社へ
 2 月 4 日 MTG
 2 月 6 日 MTG
 2 月 7 日 C&C 最終打ち合わせで会社へ
 2 月 8 日 MTG
 2 月 9 日 トレンダーズ、マクロミル最終打ち合わせで会社へ
 2 月 10 日 MTG
 2 月 13 日 MTG
 2 月 15 日 MTG
 2 月 17 日 イベント当日

・目標達成度

【達成度】

イベント目標達成率 50%

個人目標達成率 25%

【根拠】

最初の目的であった、県外から有名な社長さんに来ていただくという目標を達成出来た。

また、筑波大学生が少しでも刺激を受けてもらいたく活動を行い、実際に twitter など「影響を受けた」などの言葉を聞く事が出来たため、イベントの「挑戦する事を伝える」目的が少しでも達成出来たかと思われる。

しかし、目標としていた集客人数や、観客に対して伝えたい事を 100% 伝えきれたかと言われれば、かなり不満が残るため上記の数値とした。

・得られた成果

筑波大学に対して外部の刺激を持って来る事が出来た。

自分たちも新しい事に挑戦する事によって、挑戦する大切さを伝えられた。

メンバーの能力向上をはかれた。

今後の課題

【課題】

◆コンテンツ制作に時間がかかる

外部講師を数人呼んだため、外部とのやり取りに、想定の数倍時間がかかった。東京に何度も行く覚悟が必要です。

◆広報に関して

筑波大学の広報はとても難しいので、T-ACT などに早めに相談をし、広報を行うのがよいと思います。

◆来場者の目的を知る

来場者がどのような目的でイベントに参加しているのかを、もっと明確にしておけばよいと感じました。

◆イベント当日運営に関して

イベント当日に起こるハプニングに対応出来ず、時間が押してしまいました。当日に起こるなるべく多くのハプニングに想定しておく必要があると感じました。

経験者からのメッセージ

新しいプランに挑戦する事はとても大変で、勇気のいることだと思います。しかし、挑戦したプランが終了したとき、本当に多くの事を得ている事に気づきます。それは貴重な経験であったり、最高の仲間であったりです。

T-ACT を通して活動を行う事にとっても意味があると思うので、ぜひ皆さんも全力で取り組んでみてください！

楽しみにしています。

運営者側から見たパーティシパントの変化

イベント参加者は、社長からの講演や、同じ大学生のプレゼンを聞き、何かを初めてみようと感じたと思います。

また、自分で会社を持つという新しい価値観を得た学生が多いと思うので、今後の活動の幅を増やしていく人もいないのではないかと思う。

T-ACT に関する感想

今回、T-ACT を通してプランを行う事が出来、本当に助かりました。

T-ACT は学生にとって、多くの助けになっているため、今後より多くの活動を支援していただければと思います。

ただ、T-ACT での活動がなかなか一般学生に知られにくいと感じたので、一般の学生に、プランや T-ACT 自体の活動を知ってもらえる仕組みがもっと増えれば嬉しいです。

本当にありがとうございました。

T-ACT つくばアクションプロジェクト



企画名 ランチ交流会（10049A）

T-ACT プランナー 森 裕信（教育学類）

活動内容

本企画は、学部・学年や学生・教職員という身分の垣根をこえて、交流できる機会を提供することを目的とする。この交流会が、自然と行われるようになり、筑波大学の文化として根づくことを最終目標とする。

本企画の意義は、様々なバックグラウンド（学問的知識、課外活動での経験等）を持った人々が交流することで、知の交流が生まれると共に人脈が形成されることにより、参加者の中から研究活動で優れた功績をあげる人材が生まれることを期待する。それが、筑波大学のブランド価値の向上につながると思われる。

活動期間 平成23年2月1日～平成23年3月7日

活動計画

期間内 週に2回（月曜日・木曜日）、お昼ご飯を持参して3学食堂と3学食堂専門店街の間にある談話スペースに集まる。
参加費無料

備考欄

T-ACT オーガナイザー 北村 百代（教育学類）
榊原 敬治（物理学類）

T-ACT パートナー 荒川 麻里（人間総合科学研究科）

活動報告

活動成果

【活動内容】

毎週月曜日と木曜日の昼休み開催。（* 24日は前期入試のため開催せず）

企画承認前：ランチ交流会が機能するかを調べるために、T-ACTとしてではなく個人で友人を集めて開催。

1月31日 第1回ランチ交流会（合計参加者人数：12名）

企画承認後：

2月3日 第2回ランチ交流会（11名）

2月7日 第3回ランチ交流会（8名）

2月10日 第4回ランチ交流会（10名）

2月14日 第5回ランチ交流会（6名）

2月17日 第6回ランチ交流会（8名）

2月21日 第7回ランチ交流会（10名）

2月28日 第8回ランチ交流会（20名）

【告知方法】

不特定者向け：ポスター、twitter、T-ACT の講義、T-ACT の ML

知り合い向け：mixi、facebook、スタッフの個人的な誘い

【活動成果】

「色んな学年・学類の学生が気軽に交流できる場を提供する」ことを目的とする本企画では、2つの目標を設定した。

ひとつは、参加者が一回でも「はじめまして！」という言葉と言える交流会にすることである。すなわち、面識のない人たちが毎回交流会に一定数いることである。もうひとつは、参加者の行動の前進に貢献することである。

上記目標を達成することができたと思う。前者について、各々のスタッフが複数の団体に所属していることから、様々なルートから参加者募集し毎回初対面の人たちを一定数確保することができた。ちなみに、交流会の参加者の内訳は、半分は初参加者、半分はリピーターであった。

後者について以下の【参加者の声】にあるように、活動のメンバーが増えた人や自分の活動に活かせる知見を得られた人がいた。

【参加者の声】

「色んな人がいて、不思議な空間だった。わくわくした！」（工学システム学類2年）

「バンドのメンバーが増えました。なんと次回ライブに参加してくれることになりました！交流会では、自身の活動を知ってもらえると共に、色んな方の活動を聞くことができ、そこから新しい企画に参加することができました。企画者様に感謝です。」（数理物質科学研究科2年）

「異分野の友人ができたおかげで、自身の活動においても新たな発想・手段を取り入れることができ、非常に有意義でした。そして何より楽しい！来年以降も続いていくといいね！」（比較文化学類4年）

今後の課題**【課題】**参加者募集

企画段階での理想の参加者募集は、ポスターやスタッフ（プランナー・オーガナイザー）を通して募集し、一度ランチ交流会に参加した人が次の回で友人を連れてきてくる形であった。結果として、ポスターでの参加者募集は上手く機能しなかったが、参加者が次の回で友人を連れてくることは機能した。

毎回の参加者の大部分はスタッフの知り合いであったが、その知り合い同士は殆ど面識がなかったので、本交流会がきっかけで新たなつながりを生むことができた。

8回のランチ交流会を終えて、広報は次の形が望ましいと考える。まずは、活動を継続的に開催し、学内でのランチ交流会の周知をはかる。同時に、参加者が満足できる場を提供し、参加者の口コミで広める。参加者がランチ交流会をきっかけとして何らかの成果を生み出すことができれば、その参加者を介してランチ交流会を広めることができる。

また、本企画では気軽に参加してもらえるように参加申し込み不要としていたため、開催日の昼休みまで「参加者がいないかもしれない」といつも不安だった。

会場の使用許可

開催にあたり、学生生活課から「学生が自由に出入り・利用できる場所」を「お昼ご飯を食べる」という名目による使用は、集会願いを提出する必要がないとの見解を頂いている。しかし、参加者が増えすぎると学生が自由に利用できるスペースを占有してしまうことになり、集会願いの提出が必要になると思われる。毎回、参加者が20名を越えるようであれば、集会願いを提出する。または、開催日を増やす・会場を分散するなど工夫が必要である。

□会場環境

会場（第3エリアの談話スペース）は、出入りのしやすいと広いというメリットがある一方、外との出入りがしやすいため、冬場は寒いというデメリットがある。

【今後予想される課題】

□宗教の勧誘への対策

□ランチ交流会中に事件・事故が発生した際の責任の所在

経験者からのメッセージ

□「どんな場を創りたいか？」を考え、実現するために必要な行動をとることが大切。思い描く「場」が具体的であるほど、自分が今やるべき行動が明確になる。

例1：ランチ交流会

・参加者から「はじめまして」という言葉が聞こえる交流会

→多方面から参加者を多く集める。意図的に自分の知り合い同士を引き合わせる。

・孤立した人がいない交流会

→周りになじめていない人を見つけたら、声をかけその人と話したり、他の参加者に紹介する。

例2：イベント企画

・検討事項が迅速に決まり終了した時に各々やることが明確になっているミーティング

→検討する事項に関わる資料を用意する。事前にメンバーの考えをきいておく。ミーティング資料にToDoリストをつける。各々やることを、コミットメントする。

・参加者が安全・安心して会場までお越しになれるイベント

→リマインダーメールに地図や緊急連絡先をつける。参加者が利用する交通手段の情報（時刻表）を収集する。夜に学内イベントをやる際は退場ルートを調べ参加者に伝える。

□協力者を募るためには、自分のやりたいことをシンプルな言葉で説明できることが大切である。そうなるために、やりたいことを色んな人に話し意見をもらって、考えをブラッシュアップする必要がある。

□交流会では、すぐに初対面の人と仲良くなれる人もいれば、そうでない人もいる。そのため、周りになじめない人への配慮が主催者には求められる。（プランナーの森は後者。）

初対面の人同士が仲良くなれるように気配りをすることは、他のT-ACT企画のプランナーにも必要なことだと考える。

運営者側から見たパーティシパントの変化

毎回参加者の構成が変わることを前提している本企画では、「パーティシパントの変化」を次のように分けて述べる。ひとつは、初参加者についてである。交流会というものに参加すること自体が初めてで席についた当初はぎこちない態度を見せる人が殆どだった。しかし、しばらくすると自分から近くの人同士で自己紹介をし始め、会話の中で共通の知り合いや共通の関心を見つけ話に花が咲くという光景が毎回の交流会で見られた。例えば、以前同じ学内行事の実行委員会に所属していたにもかかわらず、面識がなかった人たちがいた。

もうひとつは、リピーターについてである。リピーターの多くは何らかの活動を広めたいという人であった。毎回初対面の人に対して活動を紹介するのだが、回を重ねるごとに伝えるのが上手くなっていると思った。

T-ACT に関する感想

企画の信頼度は、企画内容はもちろんのこと、その企画を保証するT-ACTの信頼度にも影響されるものだと考える。というものの、そもそも学内でのT-ACTの知名度が低い。そのため、各種方面（新生向けガイダンス、学内行事、T-ACTでのイベントなど）で広報し、知名度を高めてほしい。

編集後記

T-ACTは、平成23年で学生支援GPとしての最終年度を迎えます。これまで多くの方々からT-ACTを利用し、さまざまな活動を展開しています。その活動内容は自分自身のささやかな興味関心で細々と活動するものから、大きな問題意識を持って大規模なイベントを運営するものまで、非常に多彩です。この活動報告書を手にとって見ていただければ、そのことを少しは感じていただけるのではないのでしょうか。

同じ人間が一人としていないことを示すように、例え類似した活動であっても、その活動の進め方、運営の仕方は全く異なっており、それぞれの個性が表れています。T-ACTで行われる活動1つ1つにおいて、各プランナー独自の個性と、オーガナイザーとして運営に加わるメンバーの独自の個性との融合によって、アクションが起こります。他者との出会い、関わり合いが1つの起爆剤となるのです。そこで何が起こるかは、試してみないと誰にもわかりません。個々の活動が唯一無二の色に染まりゆく過程を、T-ACTフォーラムにおいて私たちは興味深く観察しています。

今後も、T-ACTは積極的に広報し続ける必要があります。来室者数、企画申請数の増加傾向が見られるとはいえ、現状として全学生への周知には到底及びません。個人的な意見としては、T-ACTを知った上でこれを利用しないことに関してはさほど問題ではないように感じます。自分には必要がない、興味がないと自分自身で判断されたのであれば、その意思を尊重すべきでしょう。しかし、十分に周知されないままに一部の学生のみ利用に留まる状況に、T-ACTの運営側が満足して終わってしまうことだけは避けなければなりません。自分のやりたいこと、実現させたいことを形にするための手段のとして、皆さんの選択肢の1つにT-ACTがあることを頭の片隅に置いておいてください。

T-ACTは皆さんの自発性に応えるプロジェクトです。そしてここは、さまざまなことが試せる個人実験の場であり、新たな発見の場でもあります。新しいことを始めることへの抵抗感、不安感は非常に大きく、行動を起こす上での障害となりやすいと思われれます。何かやりたくても、一歩踏み出せない方々も多いでしょう。そこで、まずはほんの小さな目標として、T-ACTのリーフレットを手にとってみる、WEBサイトを覗いてみる、T-ACTフォーラムを偵察に来るなどを掲げてみませんか？1つ行動を起こすだけで、皆さんの中の「何か」が動き出すはずですよ。人が起こす行動は、どんなに小さくても構わないのです。

ぜひ、皆さんと関わる機会を私たちに提供してください。皆さんの「やってみたい」を応援する準備はすでにできています。あとは、皆さんの来室を首を長くして待っています。

つくばアクションプロジェクト運営委員会
専任教員 檜村 正美

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 23 年 3 月発行

筑波大学 T-ACT フォーラム
〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
TEL 029 (853) 2222



筑波大学
University of Tsukuba

T-ACT

つくばアクションプロジェクト

2011 APRIL